

大学図書館の現状と課題

平成30年度国立大学図書館協会東京地区協会・関東甲信越
地区協会合同フレッシュパーソンセミナー

2018年9月21日

新潟大学学術情報基盤機構学術情報部
岡部 幸祐

2040年を思い描く

今後20年でコンピュータ化される可能性が高い職業

1	電話販売員(テレマーケター)	11	図書館司書の補助員
2	不動産登記の審査・調査	12	データ入力作業員
3	手縫いの仕立て屋	13	時計の組立・調整工
4	コンピュータを使ったデータの収集・加工・分析	14	保険金請求・保険契約代行者
5	保険業者	15	証券会社の一般事務員
6	時計修理工	16	受注係
7	貨物取扱人	17	(住宅・教育・自動車ローンなどの)融資担当者
8	税務申告代行者	18	自動車保険鑑定人
9	フィルム写真の現像技術者	19	スポーツの審判員
10	銀行の新規口座開設担当者	20	銀行の窓口係

AIに取って変わられる可能性が高いのは？

Library Technicians	0.99 (692/702)
Library Assistants, Clerical	0.95 (616/702)
Librarian	0.65 (360/702)

‘0’ (not computerisable) or ‘1’ (computerisable)

C.B. Frey and M. A. Osborne, “The Future of Employment : How Susceptible are jobs to Computerisation?” September 17, 2013.

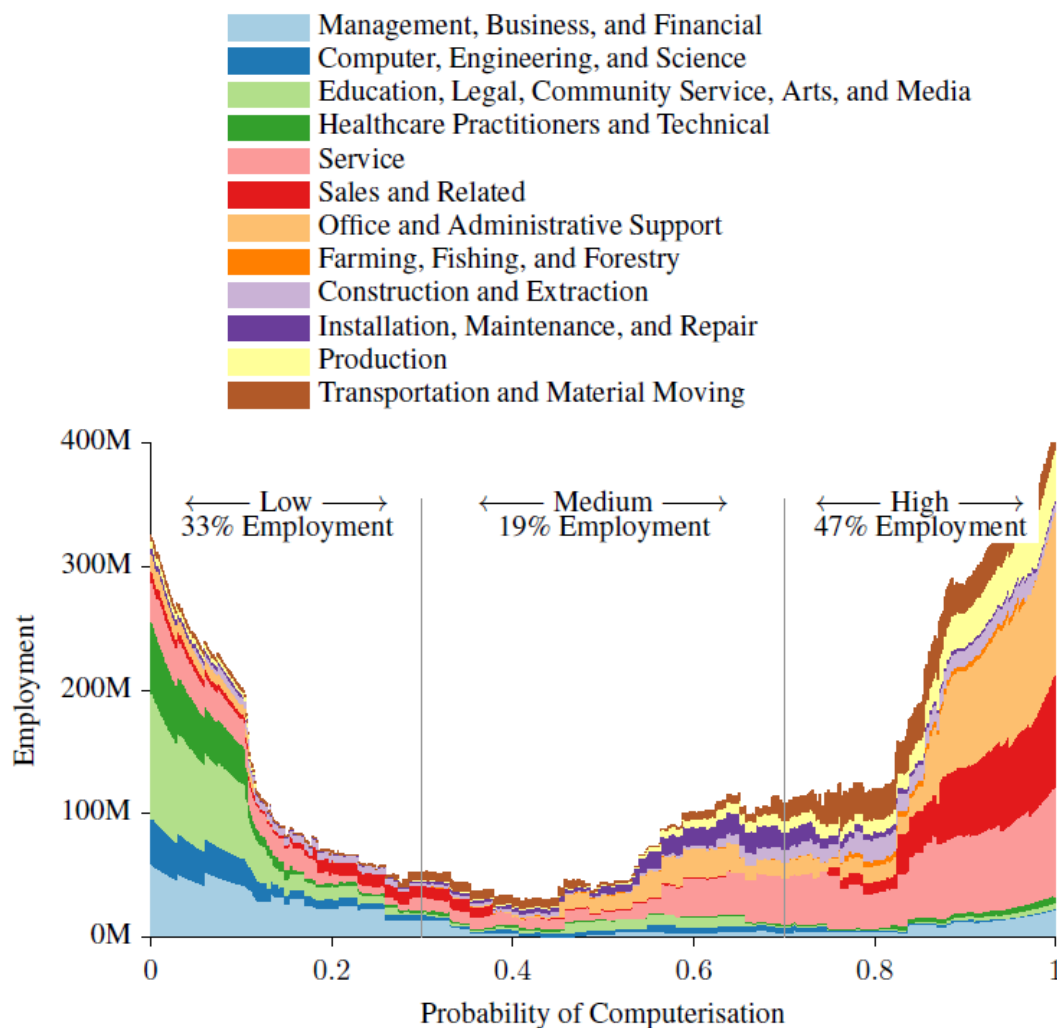
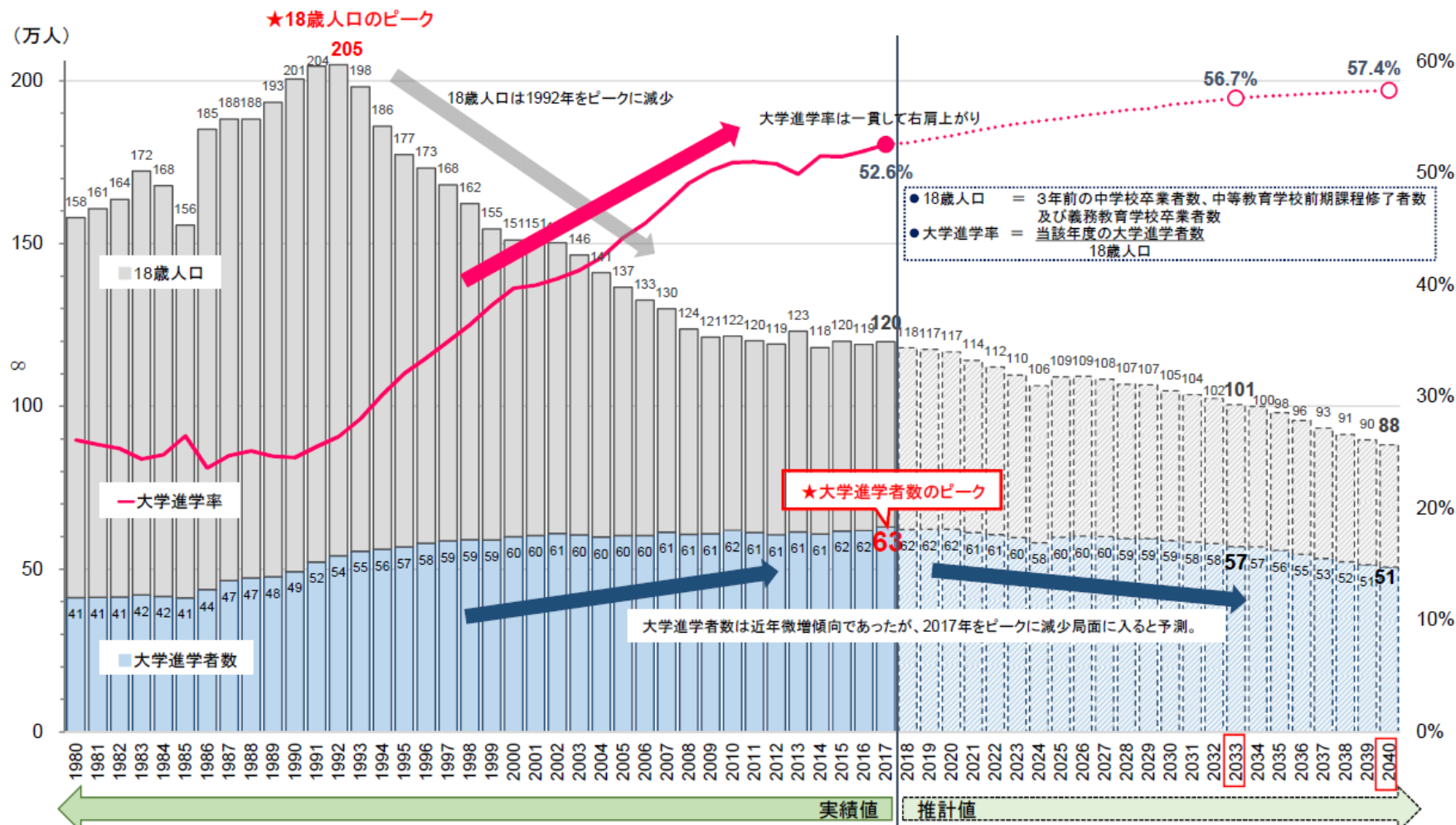


FIGURE III. The distribution of BLS 2010 occupational employment over the probability of computerisation, along with the share in low, medium and high probability categories. Note that the total area under all curves is equal to total US employment.

For workers to win the race, however, they will have to acquire creative and social skills.

大学進学者数等の将来推計について

- 18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学率は一貫して上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、2018年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に入ると予測される。



【出典】○18歳人口：①1980年～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2029年…文部科学省「学校基本統計」を元に推計、③2030～2034年…厚生労働省「人口動態統計」の出生数に生存率を乗じて推計、④2035～2040年については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）（出生中位・死亡中位）」を元に作成（2034年の都道府県比率で案分）
○大学進学者数及び大学進学率：①1980～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2040年…文部科学省による推計

国立大学改革の動き



平成16年(2004)4月 国立大学法人化

- 国立大学には、それぞれの個性を生かしながら、教育研究を一層発展させていってもらわなければなりません。
- より個性豊かな魅力のある大学になっていけるようにするために、国の組織から独立した「国立大学法人」にすることとしたわけです。
- 法人化後の国立大学では、いろいろなことが自分で決められるようになりますが、引き続き、国民の税金に支えられていくことは忘れてはいけません。
- 各大学が自己責任の重さをきちんと認識して、積極的に情報を発信し、国民の理解と信頼を得られるような国立大学になっていくことが期待されています。

(文科省ホームページ)

中期目標期間

第1期：平成16～21年度

第2期：平成22～27年度

第3期：平成28～33年度

文部科学大臣：「中期目標」を制定(各法人で原案)

→大学：「中期計画」「年度計画」を作成・実行

→文科省：評価

→運営費交付金額に反映

第1期中期目標期間

(平成16～21年度)

国立大学法人スタート

- ・自律的・自主的な環境の下での国立大学活性化
- ・優れた教育や特色ある研究に向けてより積極的な取組を推進
- ・より個性豊かな魅力ある国立大学を実現

第2期中期目標期間

(平成22～27年度)

大学改革実行プラン

(H24.6)

- ・社会の変革のエンジンとしての大学の役割
- ・大学の機能の再構築
- ・大学ガバナンスの充実・強化
- ・大学ビジョンの策定・ミッションの再定義

国立大学改革プラン

(H25.11)

- ・自主的・自律的な改善・発展を促す仕組みの構築
- ・強み・特色の重点化
- ・グローバル化
- ・イノベーション創出
- ・人材養成機能の強化

第3期中期目標期間

(平成28～33年度)

機能強化の推進

- ・地域貢献、専門分野、卓越等3つの重点支援枠

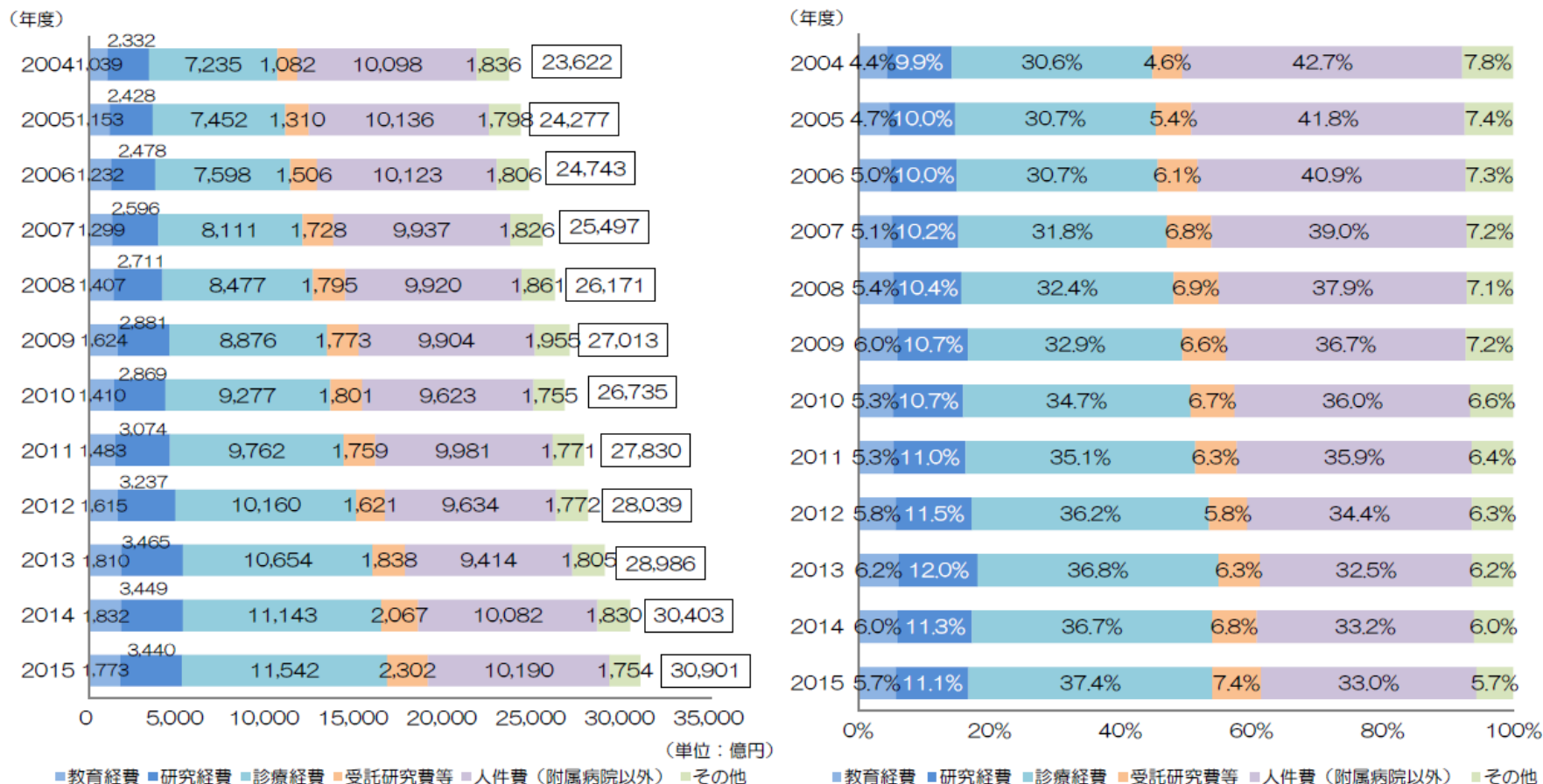
基盤的経費の確保・資産の有効活用

- ・個人寄付の税額控除
- ・土地等の貸付

国立大学経営力戦略

- ・指定国立大学法人制度
- ・卓越大学院
- ・卓越研究員

●経常費用の内訳と法人化後の推移（2004-2015）

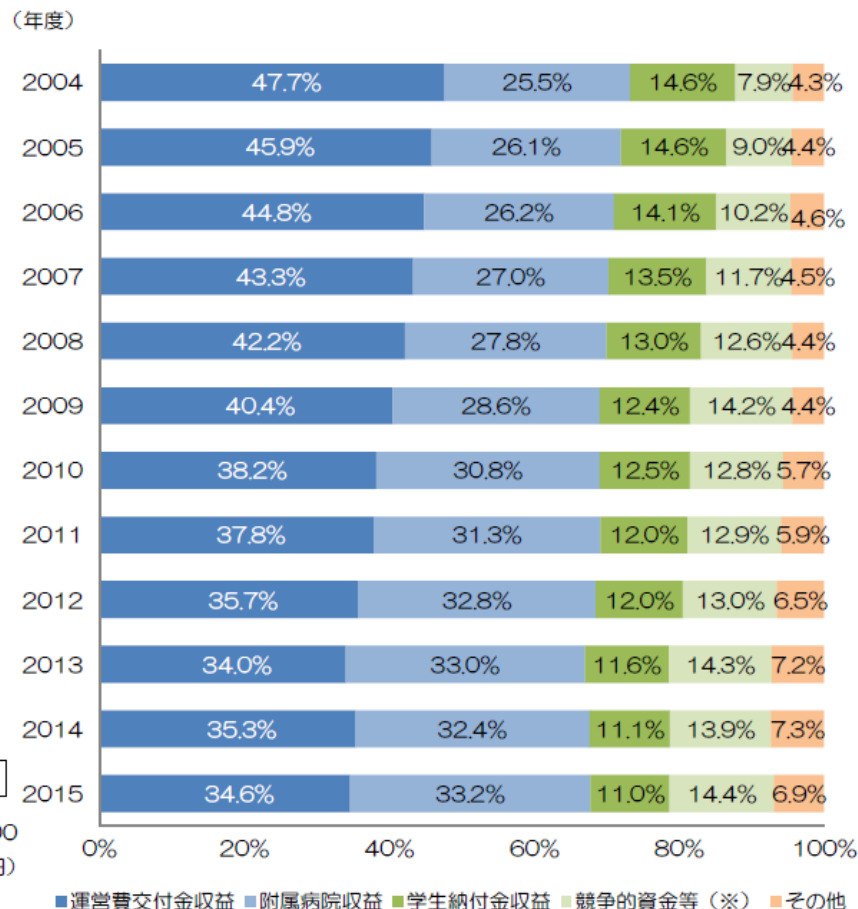
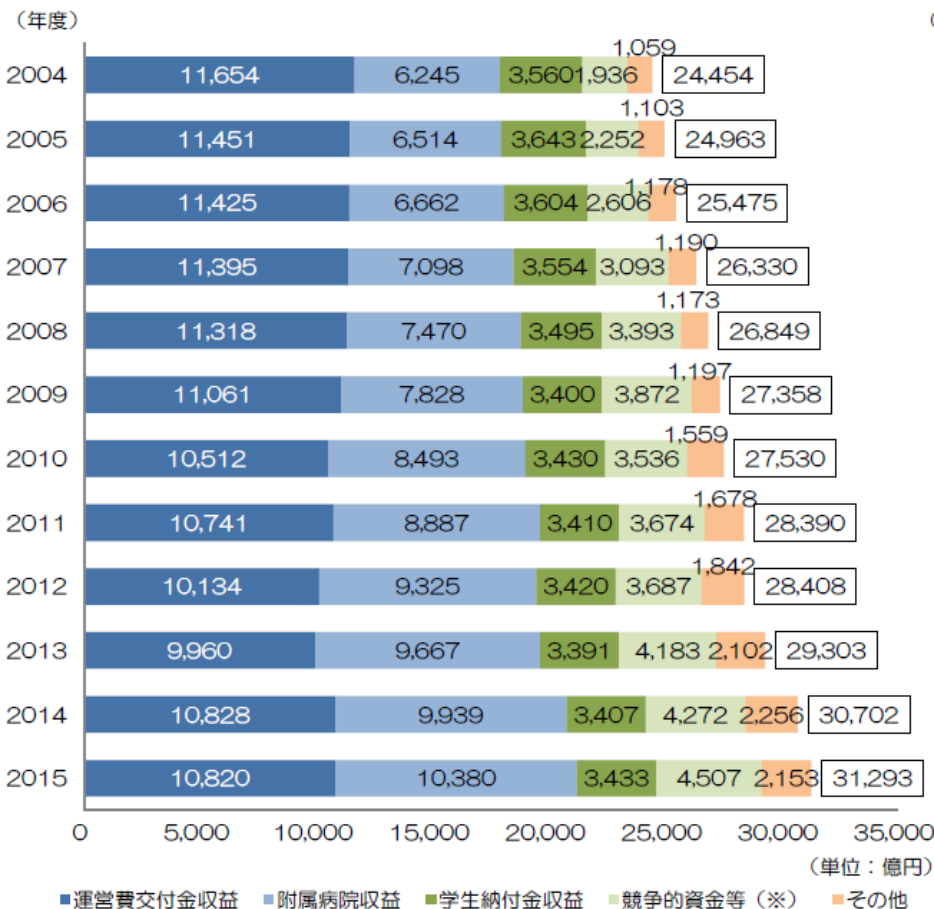


(注) 診療経費は、診療経費と附属病院の教職員人件費の合計額。

(出典) 文部科学省「国立大学法人等の事業年度決算等について」（各年）より国立大学協会事務局作成

国立大学協会HPより

●経常収益の内訳と法人化後の推移（2004-2015）



(注) 競争的資金等は補助金等収益、受託研究等収益等、寄附金収益、研究関連収益及びその他の自己収入の合計額。
(出典) 文部科学省「国立大学法人等の事業年度決算等について」(各年)より国立大学協会事務局作成

国立大学協会HPより

国立大学法人機能強化促進費

- 第3期中期目標期間における運営費交付金改革
- 3つの重点支援の枠組みをもとに各大学の取り組みを評価

重点支援①

地域のニーズに応える人材育成・研究を推進

重点支援②

分野毎の優れた教育研究拠点やネットワークの形成を推進

重点支援③

世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進

機能強化経費（新規分）の3か年の評価率

【重点支援①】

大学名	28年度	29年度	30年度
北海道教育大学	107.8%	102.7%	98.4%
室蘭工業大学	97.0%	92.4%	104.9%
小樽商科大学	118.6%	92.4%	95.4%
帯広畜産大学	118.6%	111.7%	111.2%
旭川医科大学	-	86.4%	80.1%
北見工業大学	97.0%	92.4%	102.0%
弘前大学	107.8%	101.4%	106.4%
岩手大学	118.6%	99.9%	84.1%
宮城教育大学	97.0%	82.8%	93.6%
秋田大学	97.0%	102.7%	105.0%
山形大学	107.8%	102.7%	102.0%
福島大学	86.2%	113.0%	112.2%
茨城大学	97.0%	92.8%	89.6%
宇都宮大学	118.6%	102.7%	83.4%
群馬大学	86.2%	100.9%	85.8%
埼玉大学	107.8%	92.4%	106.9%
横浜国立大学	107.8%	102.7%	97.5%
新潟大学	107.8%	105.2%	96.6%
長岡技術科学大学	118.6%	100.7%	91.9%
上越教育大学	97.0%	92.4%	77.4%
富山大学	97.0%	80.5%	104.4%
福井大学	97.0%	98.5%	99.6%
山梨大学	97.0%	98.0%	85.9%
信州大学	97.0%	106.2%	110.3%
岐阜大学	97.0%	101.3%	98.5%
静岡大学	97.0%	90.8%	89.3%
浜松医科大学	107.8%	113.0%	112.2%
愛知教育大学	97.0%	99.6%	95.2%
名古屋工業大学	107.8%	102.7%	103.6%
豊橋技術科学大学	107.8%	99.7%	103.9%
三重大学	118.6%	108.1%	109.2%
滋賀大学	107.8%	102.3%	92.7%
滋賀医科大学	97.0%	102.7%	91.8%
京都教育大学	75.5%	82.2%	94.4%
京都工芸繊維大学	118.6%	102.7%	112.2%

【重点支援②】

大学名	28年度	29年度	30年度
筑波技術大学	82.3%	101.4%	106.6%
東京医科歯科大学	102.9%	110.0%	104.9%
東京外国語大学	92.6%	102.4%	96.8%
東京学芸大学	102.9%	93.1%	95.0%
東京芸術大学	113.2%	101.7%	110.0%
東京海洋大学	102.9%	95.4%	85.8%
お茶の水女子大学	92.6%	99.0%	90.8%
電気通信大学	102.9%	96.1%	108.8%
奈良女子大学	92.6%	81.3%	98.9%
九州工業大学	92.6%	96.5%	104.2%
鹿屋体育大学	92.6%	78.3%	100.0%
政策研究大学院大学	102.9%	94.3%	77.5%
総合研究大学院大学	102.9%	102.9%	103.5%
北陸先端科学技術大学院大学	92.6%	95.7%	97.9%
奈良先端科学技術大学院大学	102.9%	108.5%	102.2%

【重点支援③】

大学名	28年度	29年度	30年度
北海道大学	100.2%	103.0%	99.7%
東北大学	100.2%	99.3%	104.6%
筑波大学	100.2%	91.7%	97.0%
千葉大学	90.2%	87.8%	92.0%
東京大学	100.2%	102.0%	100.2%
東京農工大学	90.2%	100.2%	97.0%
東京工業大学	90.2%	106.7%	101.6%
一橋大学	100.2%	87.6%	95.0%
金沢大学	80.2%	100.9%	102.9%
名古屋大学	100.2%	94.9%	99.8%
京都大学	110.3%	108.5%	104.0%
大阪大学	100.2%	99.6%	100.1%
神戸大学	110.3%	97.7%	90.0%
岡山大学	90.2%	90.8%	96.0%
広島大学	90.2%	88.1%	99.7%
九州大学	110.3%	107.0%	100.2%

今後の高等教育の将来像の提示に向けた 中間まとめ

中央教育審議会大学分科会将来構想部会

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1406578.htm

今後の高等教育の将来像の提示に向けた中間まとめ【概要】

平成30年6月28日 中央教育審議会大学分科会将来構想部会

2040年の社会の姿

- SDGs(持続可能な開発のための目標) → 全ての人が必要な教育を受け、その能力を最大限に発揮でき、平和と豊かさを楽しめる社会へ
- Society5.0・第4次産業革命 → 現時点では想像もつかない仕事に従事、幅広い知識をもとに、新しいアイデアや構想を生み出せる力が強みに
- 人生100年時代 → 生涯を通じて切れ目なく学び、すべての人が活躍し続けられる社会へ
- グローバル化 → 独自の社会の在り方や文化を踏まえた上で、多様性を受け入れる社会システムの構築へ
- 地方創生 → 知識集約型経済を活かした地方拠点の創出と、個人の価値観を尊重する生活環境を提供できる社会へ

2040年に向けた高等教育の課題と方向性

高等教育における「学び」の再構築

- ◇ 「何を学び、身に付けることができるのか」を中軸に据えた学修者本位の高等教育への転換
- ◇ 個々人の「強み」や卓越した才能を最大限伸長する教育、文系・理系の区別にとらわれない、新しいリテラシーにも対応した教育、専門知や技能を組み合わせた教育の充実
- ◇ 「社会に開かれた教育課程」という理念の初等中等教育からの接続を意識した、高等教育における「学び」の再構築

高等教育の新たな役割

- ◇ リカレント教育を通じ、世代を越えた「知識の共通基盤」に
- ◇ 国内外に必要な教育を提供(日本の高等教育の国際展開)
- ◇ 地方創生、地域を支える人材の育成

高等教育に対する社会からの関与・理解と支援の在り方

- ◇ 高等教育機関自らが、その「強み」と「特色」を社会に発信
- ◇ 高等教育の質保証に関する国内外での認知向上
- ◇ 産業界の雇用の在り方、働き方改革と、高等教育が提供する学びのマッチング
- ◇ 教育投資効果を最大化する形での公的支援、人材面での社会への還元と社会からの支援の好循環

18歳人口減への対応

- ◇ できる限り多くの学生が学び、一旦社会に出た後も学びを継続するための魅力的な高等教育の提供
- ◇ 国公私全体で支える高等教育がより重要に(そのための国公私の役割分担の再確認)



社会の変化に対応できる人材とその成長の場となる高等教育

- 「個々人の強みを最大限に活かすことを可能とする教育」への転換
・学修者が「自らが学んで身に付けたこと」を説明できる体系的なカリキュラムの編成

教育の質の保証と情報公表

- 教学マネジメントの確立とその前提としての学修成果の可視化
(教学マネジメント指針の策定、大学に対する学生の学修時間等の学修成果等の情報公表の義務付け、産業界等の採用プロセスにおける当該情報の積極的な活用)
- 入り口での設置認可と認証評価制度の改善
恒常的な情報公表の促進



18歳人口の減少を踏まえた大学の規模や地域配置

- 大学の規模: あらゆる世代のための「知識の共通基盤」となりうることを見通した設定
・本格的な人口減少: 18歳人口 120万人(2017) → 103万人(2030) → 88万人(2040)
・2040年の大学進学者数推計は約51万人で、現在の約80%の規模に減少
・リカレント教育による多様な年齢層の学生の増加に留意
- 国が描く将来像と地域で描く将来像
・全都道府県の大学の配置状況に関する客観的なデータの作成(将来の入学者減の推計を含む)
・地域の国公立大学が、地方自治体、産業界を巻き込んで、将来像の議論や連携、交流の企画を行う恒常的な体制(「地域連携プラットフォーム(仮称)」)を構築
・国は、地域の実情を踏まえた議論のためのデータや仕組みづくりを行った上で、各地域の議論を支援し、それらを踏まえた全体像を提示

高等教育機関の教育研究体制

- 多様な価値観が集まるキャンパスから新たな価値が生まれる
→ 自前主義から脱却し、学部を越え、大学を越えて多様な人的資源を活用
→ 18歳で入学する従来モデルから脱却し、社会人、留学生、障害のある学生など多様な年齢層の多様なニーズを持った学生への教育体制の整備

多様な教員

- 実務家、若手、女性、外国籍など多様なバックグラウンドの教員の採用と質保証

多様な学生

- リカレント教育の充実
- 留学生交流の推進
- 学位等の国際通用性の確保
- 高等教育機関の国際展開

多様で質の高い教育プログラム

- 学部等の組織の枠を越えた学位プログラム
- 単位互換制度と「自ら開設」原則の考え方の整理
- 教員は一つの学部に関与し専任となる運用の緩和

大学の多様な強みの強化

- 大学として中軸となる「強み」や「特色」を明確化

多様性を受け止めるガバナンス

- 他大学、産業界、地方公共団体との恒常的な連携体制の構築
- 国立大学における一法人複数大学制度の導入、私立大学における学部単位での事業譲渡の円滑化、国公私の枠を越えた連携を可能とする「大学等連携推進法人(仮称)制度」の創設
- 客観的・複眼的な外部からの意見反映と多様な人材の活用による経営力強化のための学外理事の複数名登用促進



- 📖 18歳人口の減少を踏まえた大学の規模や地域配置
- 📖 地方自治体、産業界を巻き込んで、将来像の議論や連携、交流の企画を行う恒常的な体制（「地域連携プラットフォーム（仮称）」）を構築
- 📖 一法人複数大学制度の導入、私立大学における学部単位での事業譲渡の円滑化、国公私の枠を越えた連携を可能とする「大学等連携推進法人（仮称）制度」の創設

大学はどういう形で存続していくのか？

統合イノベーション戦略

内閣府

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/index.html>

統合イノベーション戦略（概要）

- 世界で破壊的イノベーションが進展し、ゲームの構造が一変、過去の延長線上の政策では世界に勝てず
- 第5期基本計画（Plan）・総合戦略2017（Do）の取組を評価（Check）し、今後とるべき取組（Action）を提示
- 硬直的な経済社会構造から脱却、我が国の強みを生かしつつ、Society 5.0の実現に向けて「全体最適な経済社会構造」を柔軟かつ自律的に見出す社会を創造
- そのため「グローバル目標」「論理的道筋」「時間軸」を示し、基礎研究から社会実装・国際展開までを「一気通貫」で実行するべく「政策を統合」
- イノベーション関連の司令塔機能強化を図る観点から「統合イノベーション戦略推進会議」を2018年夏を目途に設置し、横断的かつ実質的な調整・推進機能を構築

－ 世界の潮流・我が国の課題と強み －

「知」の融合

【世界の潮流】

- 知的資産（データや人材など）が国力の鍵に
- 情報空間（サイバー）／現実空間（フィジカル）／心理空間（アライン等）の際限ない融合

【我が国の課題】

- 社会インフラとしての分野間データ連携基盤の未整備
- IT人材の質・量の絶対的不足

【我が国の強み】

- 製造、医療、農業等の質の高い現場から得られる豊富なデータ

「破壊的イノベーション」と「創業カンブリア紀」

【世界の潮流】

- 基礎から社会実装に至るまでの時間が大幅に短縮
- 研究開発型ベンチャーの誕生・急速な成長
- 各国独自の多様なイノベーション・エコシステムの登場
- ICTサービスを中心に発展してきたデジタルプラットフォームの現実空間（流通、自動車、医療、農業、ITセキュリティ等）への拡大

【我が国の課題】

- 相対的に不十分な大学改革と低い研究生産性
- 研究開発型ベンチャーの数・規模等世界に大きく劣後

【我が国の強み】

- 大学・研究機関のいまだ高い研究開発力
- 産業界の優れた技術と潤沢な資金

国際的な対応 ～浮かび上がる光と影～

【世界の潮流】

- 各国とも研究開発投資、教育改革、安全保障政策、貿易投資政策等を総動員した大胆な政策の展開
- SDGs達成への期待
- イノベーションの影としての格差拡大、覇権争い

【我が国の課題】

- 硬直的な経済社会構造／国際化の極端な遅れ

【我が国の強み】

- 環境先進国となった実績、課題先進国としての世界のモデルとなる好機
- 東南アジアの発展等を支えた実績／アジア・中東・欧米等における安定的な経済社会関係

－ 統合イノベーション戦略の基本的な考え方 －

- 政策の統合により、知・制度・財政の基盤三本柱を改革・強化しつつ、我が国の制度・慣習を柔軟に「全体最適化」
- 「世界で最もイノベーションに適した国」を実現、各国が直面する課題の解決モデルを我が国が世界に先駆けて提示

知の源泉

- 世界に先駆け、包括的官民データ連携基盤を整備（AIを活用、欧米等と連携）
- オープンサイエンス（研究データの管理・利活用）／証拠に基づく政策立案（EBPM・関連データの収集・蓄積・利活用）

知の創造

大学改革等によるイノベーション・エコシステムの創出

- 経営環境の改善（大学連携・再編の推進、大学がバリエーションの策定、民間資金獲得等に応じて運営費交付金の配分のメリハリ付け等によるインセンティブの仕組みの導入等）
- 人材流動性の向上・若手の活躍機会創出（新規採用教員は年俸制を原則導入するなど、国立大学の教員について年俸制を拡大、加えてポスト制度の積極的な活用等）
- 研究生産性の向上（競争的研究費の一体的な見直し（科研費等の若手への重点化、挑戦的な研究の促進等）等）
- ボーダレスな挑戦（国際化、大型産学連携（外国企業との連携に係るガイドラインの策定等）

戦略的な研究開発の推進

- 非連続的なイノベーションを生み出す研究開発を継続的・安定的に推進

知の社会実装

世界水準の創業環境の実現

- 日本型の研究開発型ベンチャー・エコシステムの構築（人材流動化促進の方策の検討等）
- 起業家育成から起業、事業化、成長段階までスピード感のある一貫した支援環境の構築（産業界・政府系機関・官民ファンドの連携強化等）
- ムーンショットを生み出す環境整備（表彰等のアワード型研究開発支援の検討等）

政府事業・制度等におけるイノベーション化の推進

- 新技術の積極的活用（イノベーション・転換）、制度整備、規制改革等、政府事業・制度等におけるイノベーション化が恒常的に行われる仕組みの構築
- CSTIの情報集約・分析機能の強化

知の国際展開

SDGs達成のための科学技術イノベーションの推進（STI for SDGs）

- 国内ロードマップを2019年秋までに策定（国内実行計画として活用、世界へ発信）
- 各国のロードマップ策定への支援
- 我が国の科学技術シーズと国内外のニーズを結びつけるプラットフォームの在り方の検討

我が国の課題解決モデルを世界へ

- 知の源泉から国際展開までの取組を通じた課題解決モデルの提示
- 国際標準化、オープン・イノベーション・エコシステム戦略等を考慮した取組の推進

強化すべき分野での展開

各分野における取組の推進

- AI技術
 - 全レベルでの格差の縮小のための人材育成
 - 自前主義から脱却した戦略的研究開発（農業／健康／医療／介護／建設／防災・減災／製造等）
 - 人間中心のAI社会原則の策定
- バイオテクノロジー
 - 2019年夏を目指し新たなバイオ戦略を策定（「データ駆動型」技術開発等に先行的に着手）
- 環境エネルギー
 - グローバルな視点での目標の達成に向けた道筋の構築（エネルギー・マテリアル・システム、創エネ・スマート・エネを重点的に実施）
- 安全・安心
 - 我が国の優れた科学技術を幅広く活用し、様々な脅威に対する総合的な安全保障を実現
- 農業
 - スマート農業技術、スマートフードチェーンシステムの国内外への展開（ターゲットを明確化し国際展開を見据え実施）
- その他の重要な分野
 - 光・量子／健康・医療／海洋／宇宙等の分野の取組をSIP等を活用し着実に推進

知の源泉

- ≡ 世界に先駆け、包括的官民データ連携基盤を整備（AIを活用、欧米等と連携）
- ≡ オープンサイエンス（研究データの管理・利活用）
- ≡ 証拠に基づく政策立案（EBPM・関連データの収集・蓄積・利活用）



知の創造

- 大学改革等によるイノベーション・エコシステムの創出
 - 経営環境の改善（大学連携・再編の推進、大学がバナンスコードの策定、民間 資金獲得等に応じて運営費交付金の配分のメリハリ付け等 によるインセンティブの仕組みの導入等）
 - 人材流動性の向上・若手の活躍機会創出（新規採用教員は年俸制を原則導入するなど、国立大学 の教員について年俸制を拡大、クロスアポイントメント制度の積極 的な活用等）
 - 研究生産性の向上（競争的研究費の一体的な見直し（科研費等の若手 への重点化、挑戦的な研究の促進等）等）
 - ボーダレスな挑戦（国際化、大型産学連携）（外国企業との連携に係るガイドラインの策定等）
- 戦略的な研究開発の推進
 - 非連続的なイノベーションを生み出す研究開発を継続的・安定的に推進

Society 5.0: 超スマート社会

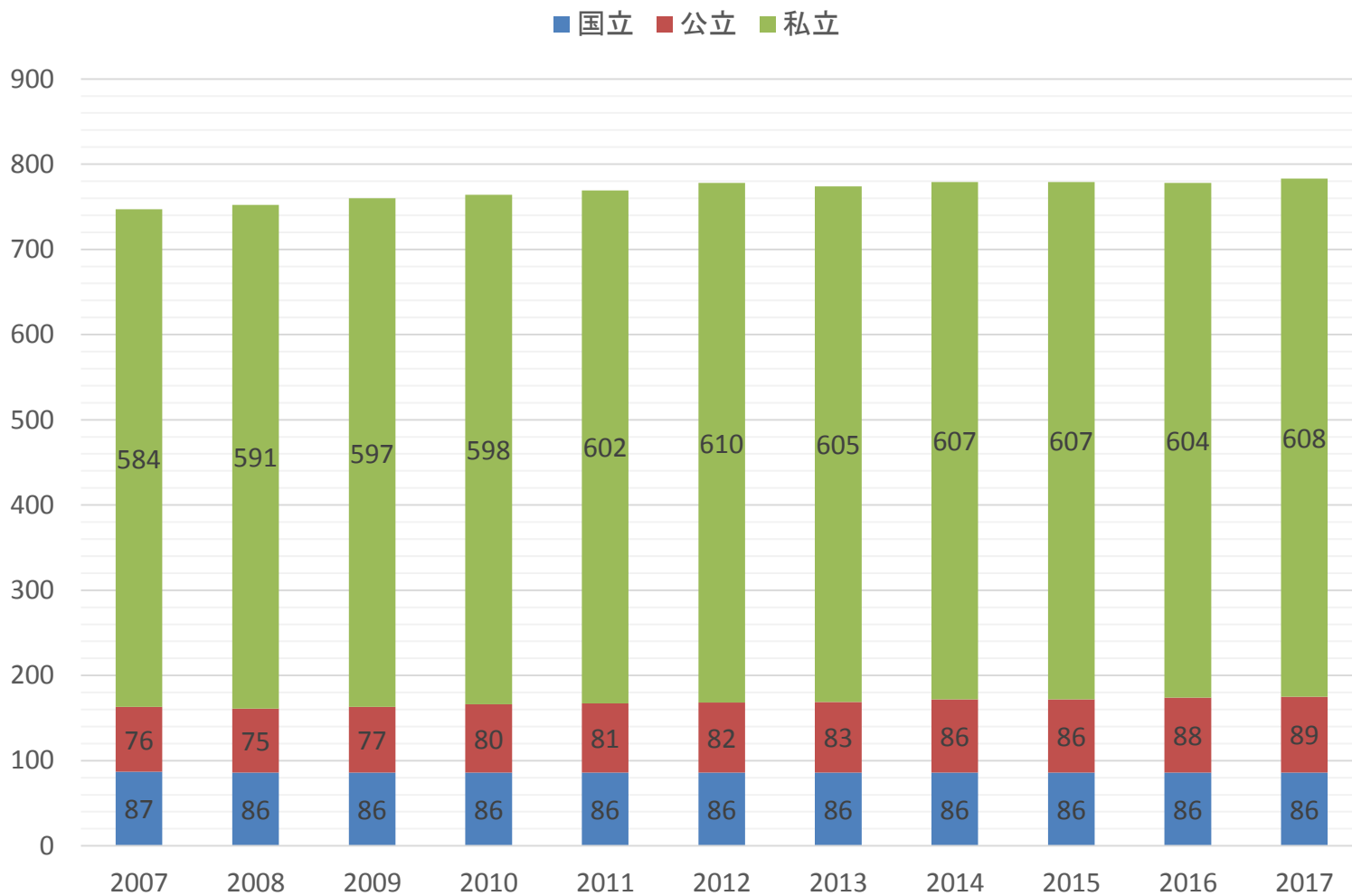
データ駆動型社会

オープンサイエンス

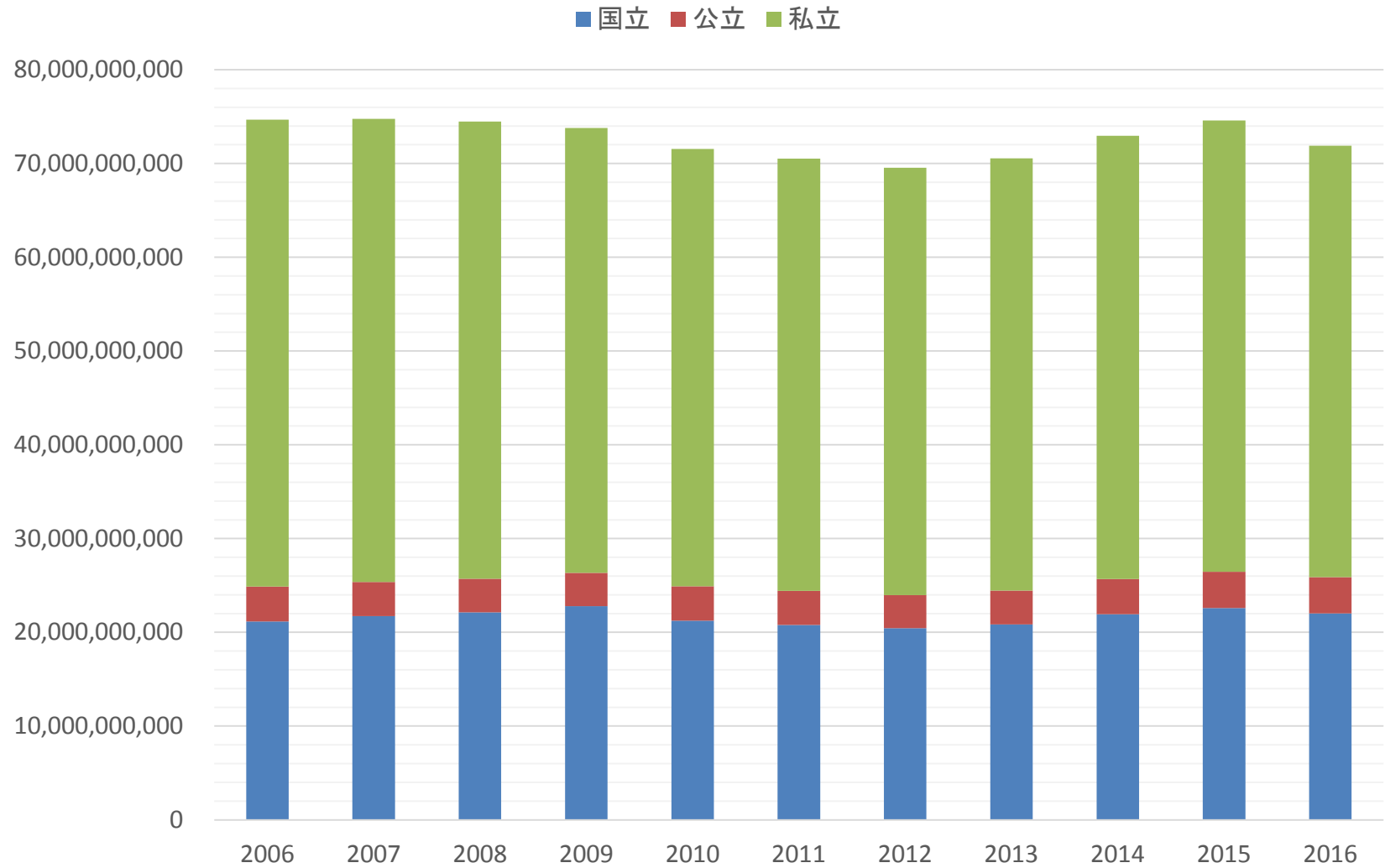
イノベーションエコシステム

大学図書館の現状

(学術情報基盤実態調査から)

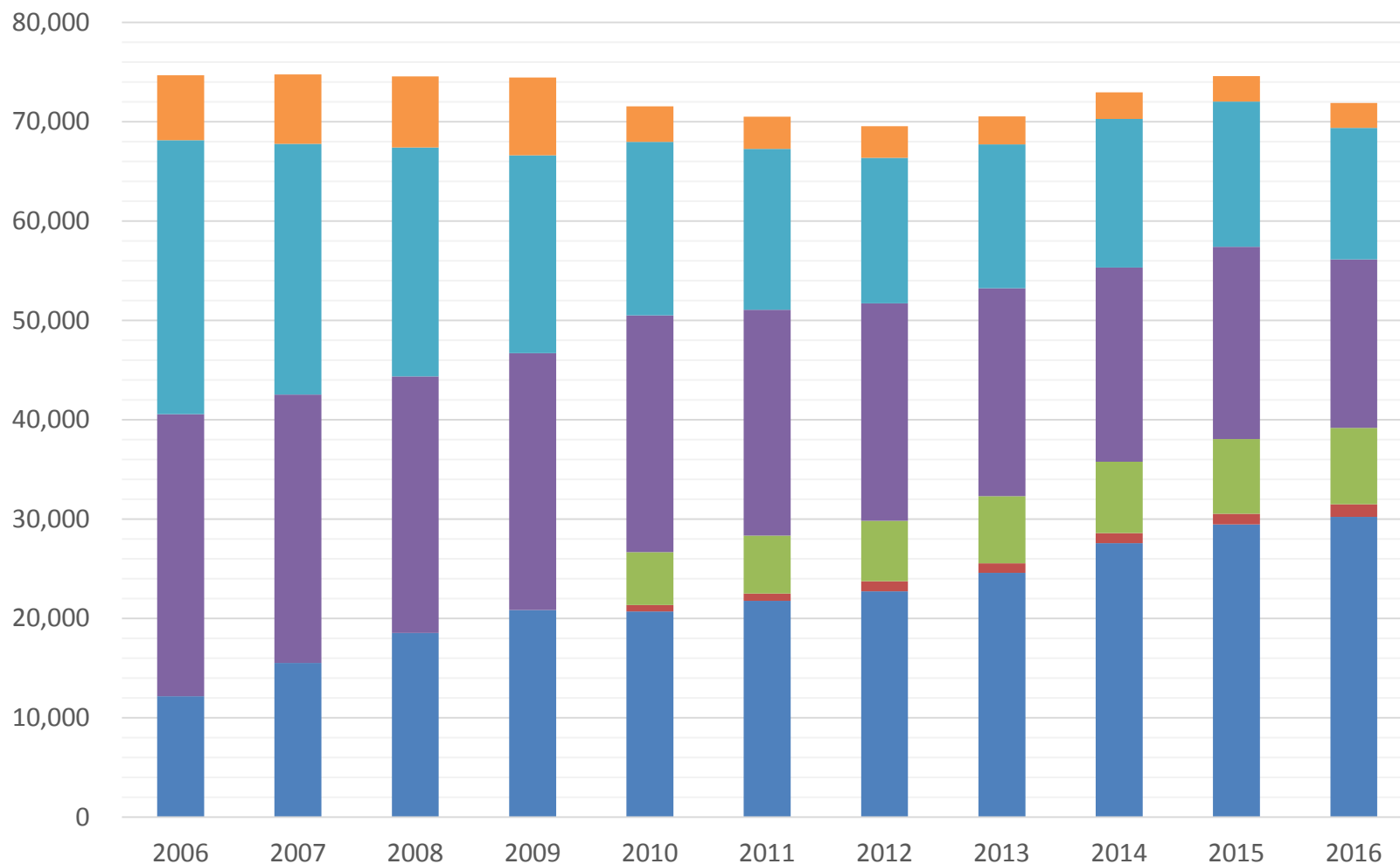


大学図書館数



資料費

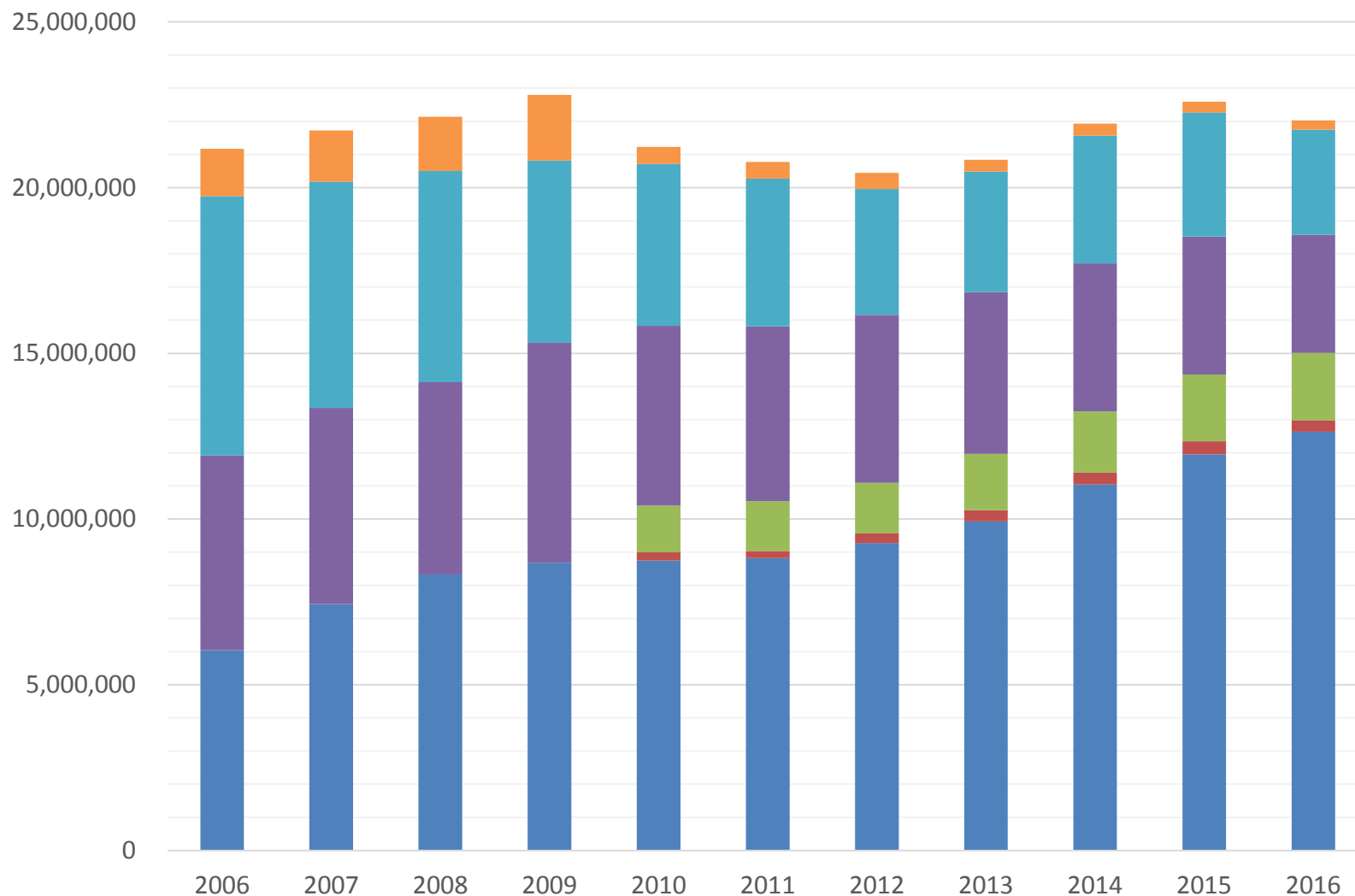
■ 電子ジャーナル ■ 電子書籍 ■ データベース ■ 図書 ■ 雑誌 ■ その他



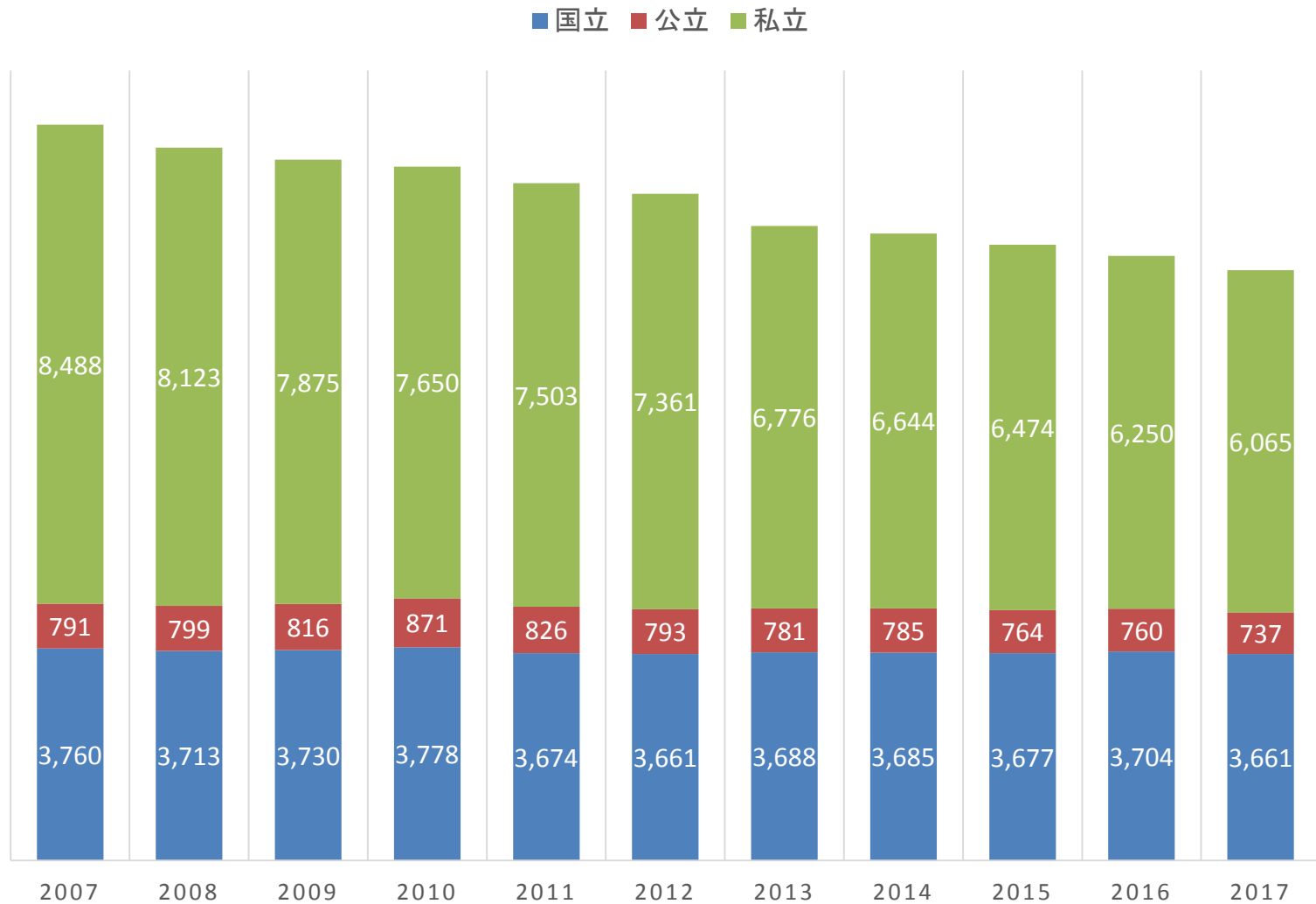
資料費



■ 電子ジャーナル ■ 電子書籍 ■ データベース ■ 図書 ■ 雑誌 ■ その他

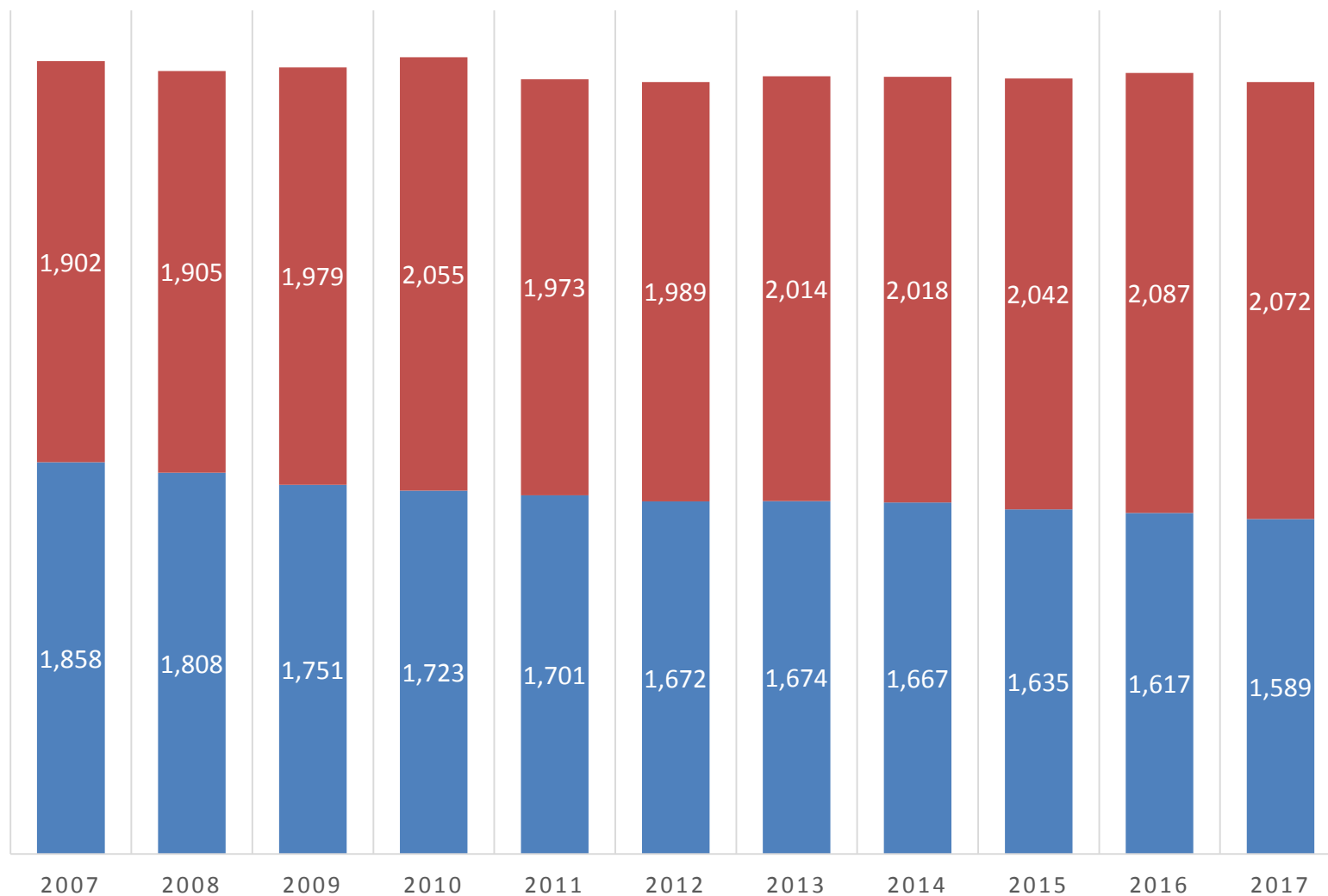


資料費(国立)

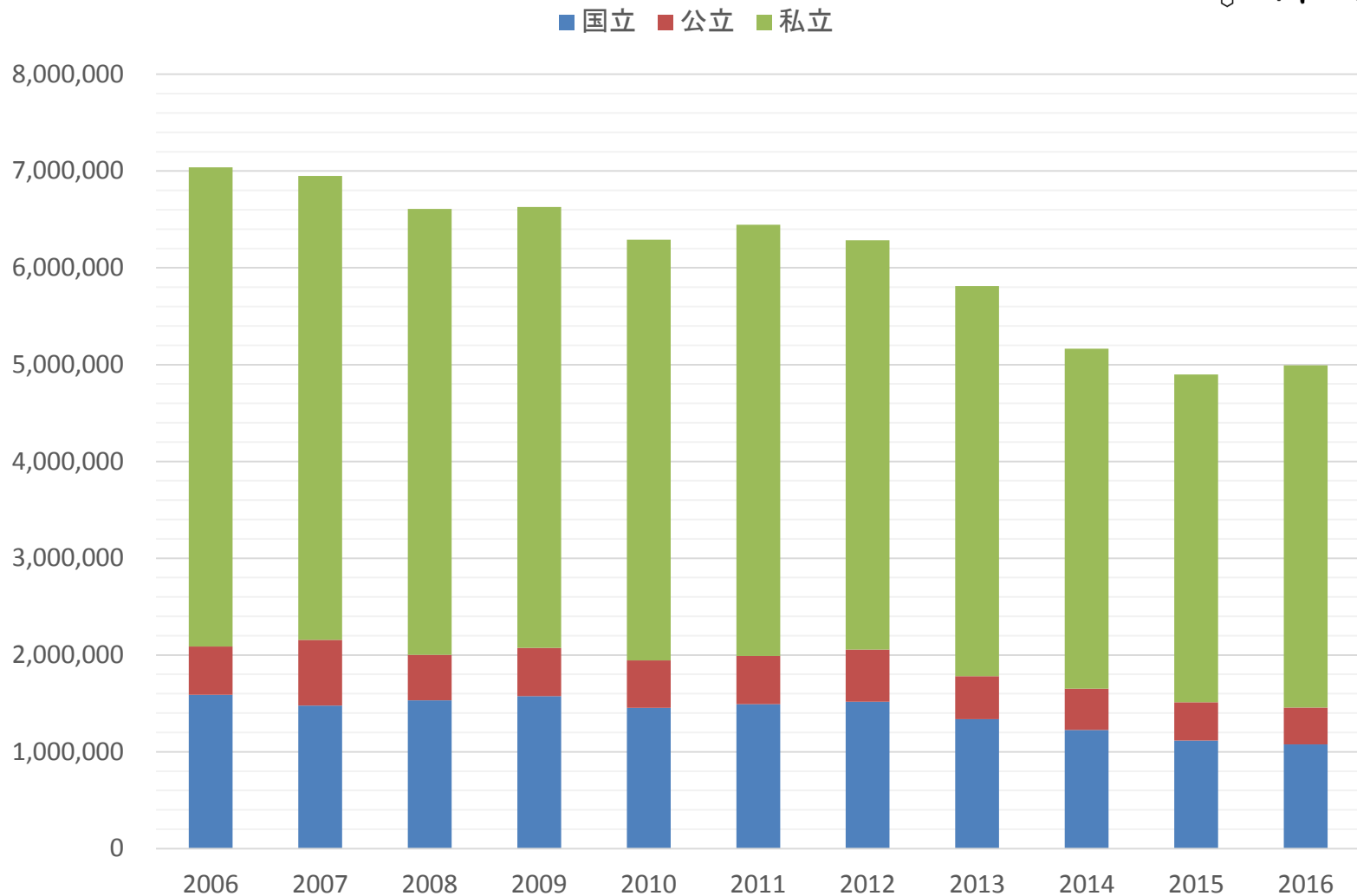


図書館職員数

■ 専任 ■ 臨時



図書館職員数(国立大学)



図書受入冊数

大学設置基準

第三十六条 大学は、その組織及び規模に応じ、少なくとも次に掲げる専用の施設を備えた校舎を有するものとする。ただし、特別の事情があり、かつ、教育研究に支障がないと認められるときは、この限りでない。

一 学長室、会議室、事務室

二 研究室、教室（講義室、演習室、実験・実習室等とする。）

三 図書館、医務室、学生自習室、学生控室

2 研究室は、専任の教員に対しては必ず備えるものとする。

3 教室は、学科又は課程に応じ、必要な種類と数を備えるものとする。

4 校舎には、第一項に掲げる施設のほか、なるべく情報処理及び語学の学習のための施設を備えるものとする。

5 大学は、校舎のほか、原則として体育館を備えるとともに、なるべく体育館以外のスポーツ施設及び講堂並びに寄宿舍、課外活動施設その他の厚生補導に関する施設を備えるものとする。

6 夜間において授業を行う学部（以下「夜間学部」という。）を置く大学又は昼夜開講制を実施する大学にあつては、研究室、教室、図書館その他の施設の利用について、教育研究に支障のないようにするものとする。

(図書等の資料及び図書館)

第三十八条 大学は、学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えるものとする。

2 図書館は、前項の資料の収集、整理及び提供を行うほか、情報の処理及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに、前項の資料の提供に関し、他の大学の図書館等との協力に努めるものとする。

3 図書館には、その機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員を置くものとする。

4 図書館には、大学の教育研究を促進できるような適当な規模の閲覧室、レファレンス・ルーム、整理室、書庫等を備えるものとする。

5 前項の閲覧室には、学生の学習及び教員の教育研究のために十分な数の座席を備えるものとする。

大学図書館に関わる答申など

- 「学術情報流通体制の改善について(報告)」学術審議会学術情報分科会. 1973.
<http://user.keio.ac.jp/~ueda/sip/sip50.html>
- 「今後における学術情報システムの在り方について(答申)」学術審議会. 1980.
<http://user.keio.ac.jp/~ueda/sip/sip5.html>
- 「学術情報流通の拡大方策について(報告)」学術審議会学術情報資料分科会学術 情報部会. 1990
- 「大学図書館機能の強化・高度化の推進について(報告)」学術審議会学術情報資料 分科会学術情報部会. 1993.
<https://www.janul.jp/j/documents/mext/houkoku.html>
- 「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」学術審議会建議. 1996.
<https://www.janul.jp/j/documents/mext/kengi.html>
- 「学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)」科学技術・学術審議会研 究計画・評価分科会 情報科学技術委員会 デジタル研究情報基盤ワーキンググループ. 2002.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/toushin/020401.htm
- 「我が国の高等教育の将来像」中央教育審議会答申. 2005.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm
- 「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会. 2006.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1213896.htm

- 「学士課程教育の構築に向けて(答申)」中央教育審議会. 2008.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm

- 「大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について(審議のまとめ)」
科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会. 2009.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1282987.htm

- 「大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会. 2010.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

- 「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」(審議まとめ)中央教育審議会大学分科会大学教育部会, 2012.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm

- 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて:生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ(答申)」中央教育審議会. 2012.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm

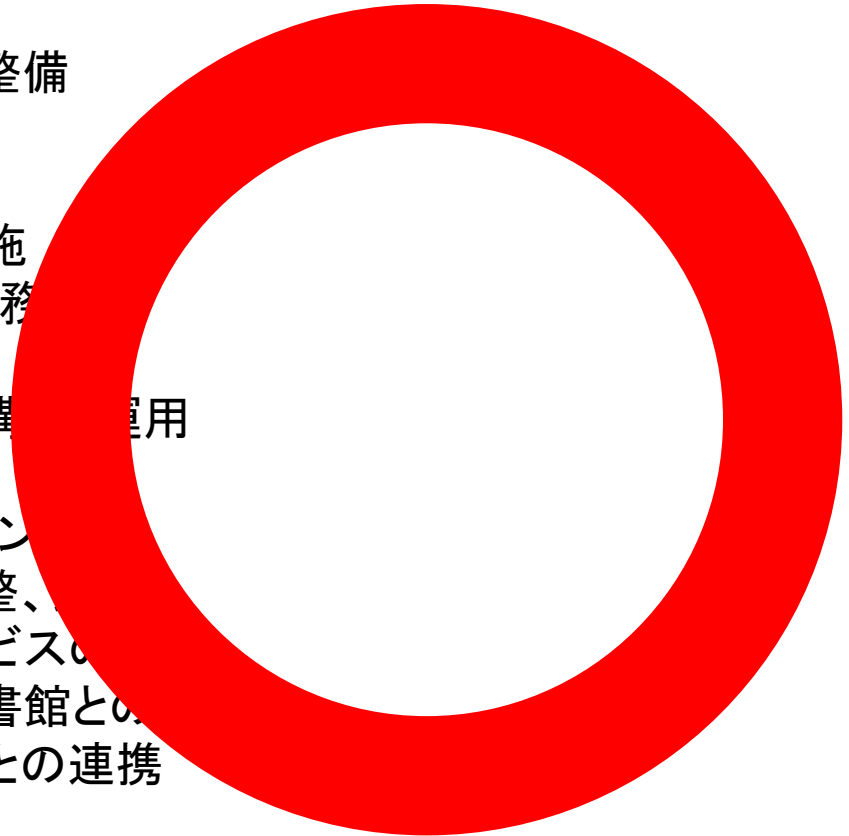
- 「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ)」文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会. 2013.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm

- 「大学等におけるジャーナル環境の整備と我が国のジャーナルの発信力強化の在り方について～ジャーナル問題に関する検討会報告書～」文部科学省. 2014.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm
- 「教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)」文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会 教育課程部会教育課程企画特別部会. 2015.
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/1351120.htm
- 「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について～サイエンスの新たな飛躍の時代の幕開け～」内閣府. 2015.
<http://www8.cao.go.jp/cstp/sonota/openscience/>
- 「学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)」科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会. 2016.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/036/houkoku/1368803.htm
- 「今後の高等教育の将来像の提示に向けた中間まとめ」中央教育審議会大学分科会将来構想部会. 2018.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1406578.htm
- 「統合イノベーション戦略」内閣府. 2018.
<http://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/index.html>

大学図書館に期待されているものとして適切なものは？

1. ラーニング・コモンズ整備
2. レファレンスサービス
3. 情報リテラシー教育
4. カリキュラム開発・実施
5. 図書館職員の教員兼務
6. e-Learning
7. e-Scienceシステムの構築・運用
8. 機関リポジトリ
9. 学術図書のコレクション
10. 外国出版社との調整、
11. ディスカバリーサービスの提供
12. MLA連携や公共図書館との連携
13. 海外の大学図書館との連携



教育へのコミット

問題 次の報告から確実に正しいと言えることには○を、そうでないものには×を、左側の空欄に記入してください。

(大学生数学基本調査)

公園に子どもたちが集まっています。男の子も女の子もいます。よく観察すると、帽子をかぶっていない子どもは、みんな女の子です。そして、スニーカーを履いている男の子は一人もいません。

- (1) 男の子はみんな帽子をかぶっている。
- (~~2~~) 帽子をかぶっている女の子はいない。
- (~~3~~) 帽子をかぶっていて、しかもスニーカーを履いている子どもは、一人もいない。

正答率64.5%

国立Sクラス 85%、私大Sクラス 66.8%

私大B,Cクラス 50%以下

(3) 大学図書館に求められる機能・役割

① 学習支援及び教育活動への直接の関与

ア. 学習支援

○ 学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、ラーニング・コモンズ、大学図書館職員等によるレファレンスサービス、学習支援が重要。

イ. 教育活動への直接の関与

○ 情報を探索し、分析・評価し、発信するスキルを一層高める情報リテラシー教育は、大学図書館が主体となって取り組むことが求められており、カリキュラム開発や実施を教員と協同して行うだけでなく、図書館職員が教員を兼任するなどして、直接授業を担当することも視野に入れるべき。また、e-Learningへの貢献が期待される。

「大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」【概要】
(平成22年12月科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会)

3つのポリシー

- ✍ 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
- ✍ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
- ✍ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」
「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

新潟大学の人材育成目標

本学の理念「自律と創生」に基づき、地域や世界の着実な発展に貢献することを目的とし、高い見識と良識をもって社会や時代の諸問題に的確に対応し、課題解決のために広範に活躍できる人材を育成します。

そのため、各教育課程の中で以下の能力を養成します。

- ・課題を発見し、それを解決する能力
- ・課題解決に必要な知識・技能を主体的に学修する能力
- ・課題に協働的に取り組むためのコミュニケーション能力

これらの共通的な能力とともに、各学部、プログラム等の特徴に基づいた能力を養成します。

プログラム修了認定(学位授与)の基準

上記の能力を有し、各学部、プログラム等で定める修了要件を満たした者に、学士の学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

◆ 教育課程の共通的な特徴

新潟大学で定めるディプロマ・ポリシーに示す能力を備え、国内外で広く活躍できる人材を育成するために、到達目標達成型プログラム(主専攻プログラム)※1と到達目標創生型プログラム(創生学修課程)※2を整備し、人材育成目標に基づく体系的な教育課程を編成しています。

◆ 教育課程編成の基本方針

各学部、プログラム等でそれぞれの特徴にあわせて基本方針を定めています。

参考:

※1 創生学部以外のすべての学士課程教育プログラム(平成29年度入学生向けで38プログラム)は、主専攻プログラムとして整備されており、そこでは、「知識・理解」、「当該分野固有の能力」、「汎用的能力」、「態度・姿勢」に関する到達目標を定め、構造化したカリキュラムを提供しています。各授業科目が到達目標のどの能力獲得に必要なかを具体的に示すカリキュラムマップも作成されており、学生は各授業科目を履修する目的が何かを具体的に意識して学修することが出来るようになっています。

※2 創生学部の創生学修課程では学生が自らの到達目標を定めて、学修をデザインする教育課程を提供しています。

アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

新潟大学の理念

新潟大学は、高志(こし)の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づいて、自律と創生を全学の理念とし、教育と研究及び社会貢献を通じて、世界の平和と発展に寄与することを全学の目的としています。

教育の基本的目標

この理念の実現と目的の達成のために、教育の基本的目標を、新潟大学の総合力を活かした学位プログラムを通じて、豊かな教養と高い専門知識を修得し、高い見識と良識をもって社会や時代の課題に的確に対応して、広範に活躍する人材を育成することに置いています。

求める学生像

教育の基本的目標を実現するために、次に掲げるような資質豊かな学生を広く求めます。

- ・ 修学に適う、確固たる学力を身につけ、新しい課題に意欲的に取り組もうとする人
- ・ 人間性を大事にし、広い視野からものごとを考えようとする人
- ・ 地域社会や世界の様々な場面で役に立ちたいと思っている人

上記の求める学生像に加え、学士課程においては、高等学校教育の全般にわたる基礎学力を有し、当該学部の教育目標・教育内容を理解し、基礎的能力と勉学への強い意欲を有する人を求め選抜します。

入学者選抜の基本方針

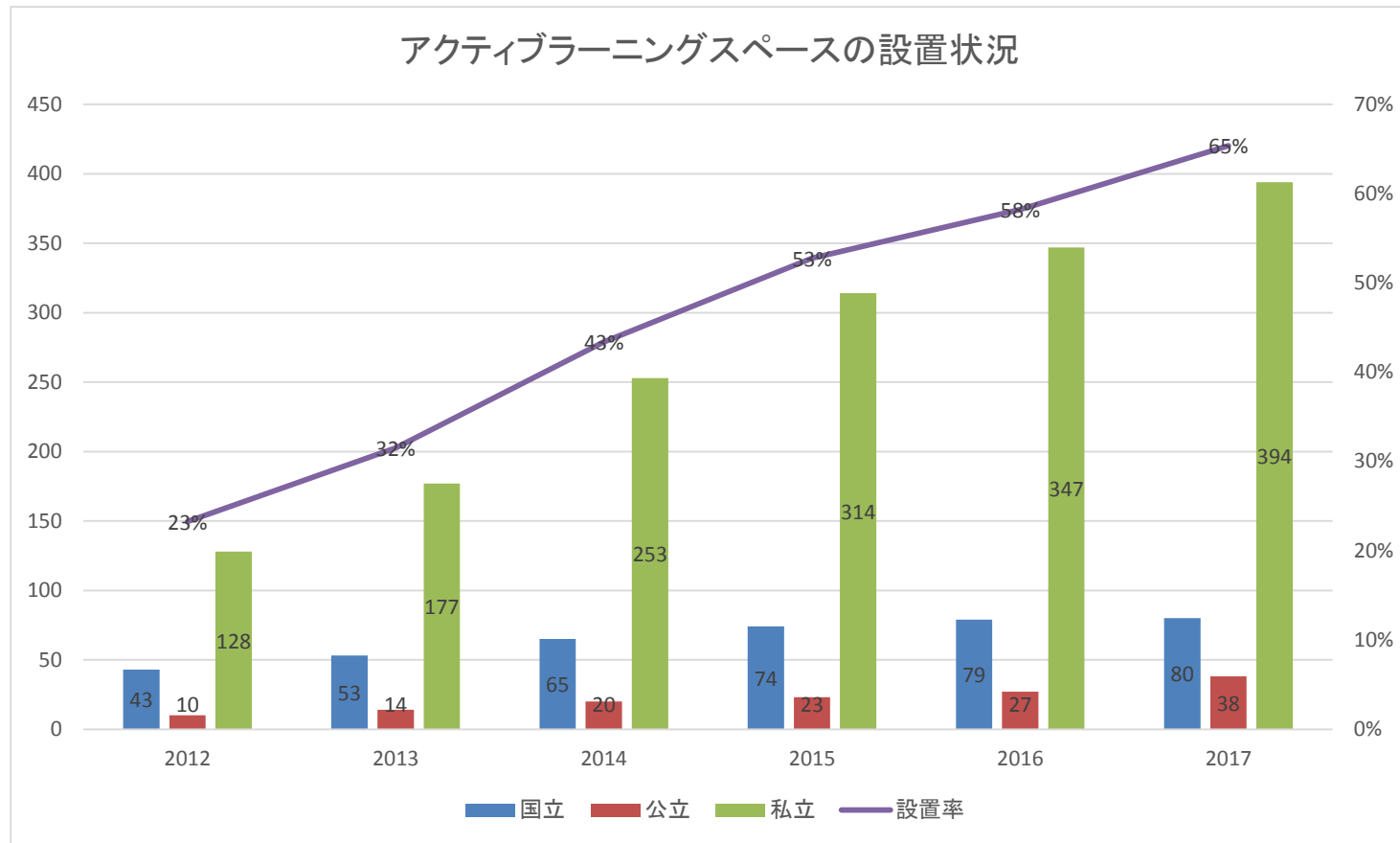
各学部、プログラム等で定める基本方針に従った選抜を行います。

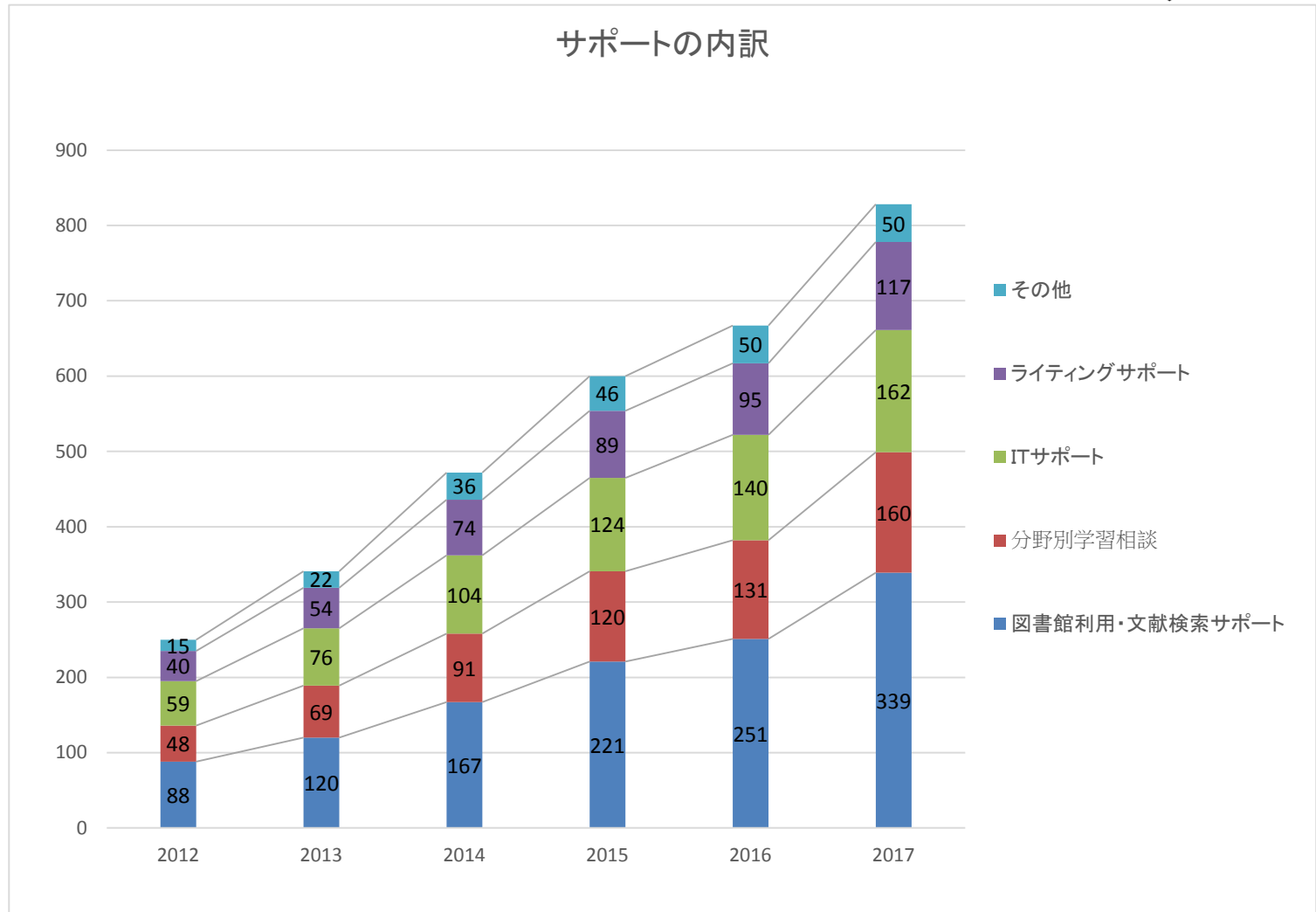
アクティブ・ラーニングスペースは

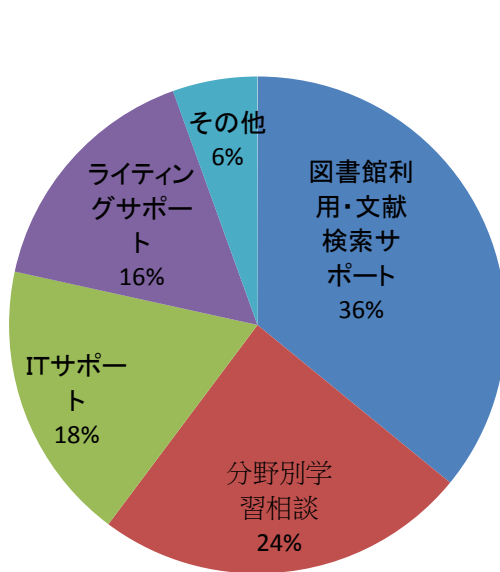
512／783

65.4%の図書館で設置済

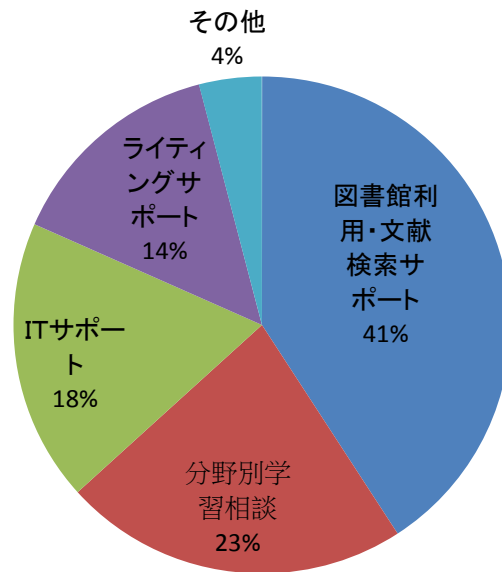
(学術情報基盤実態調査から)



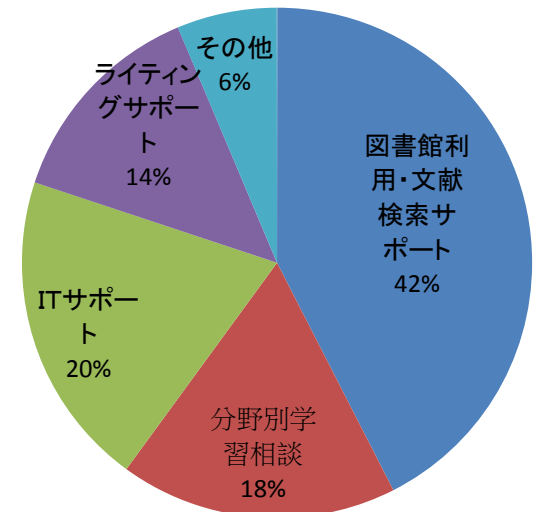




国立

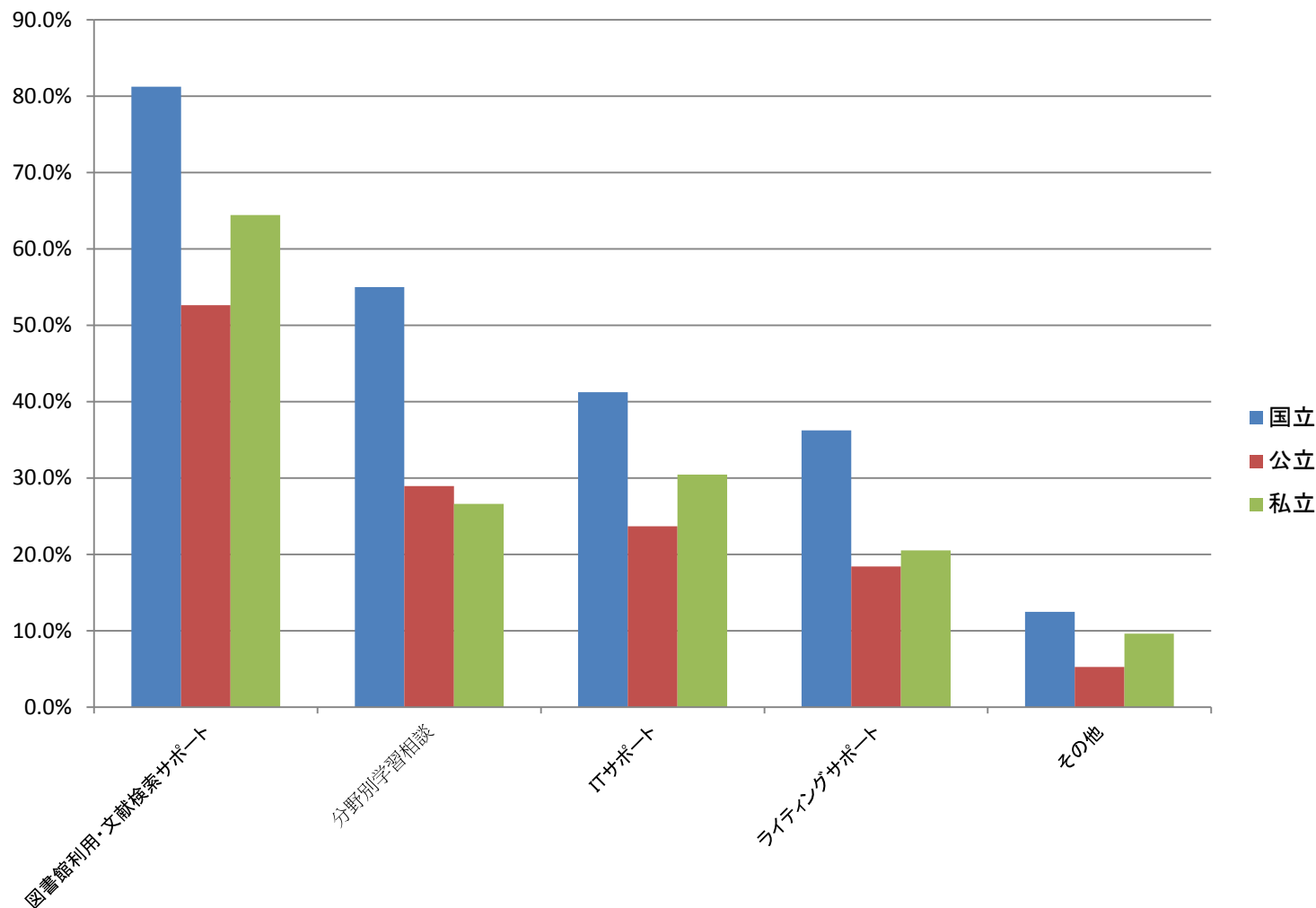


公立

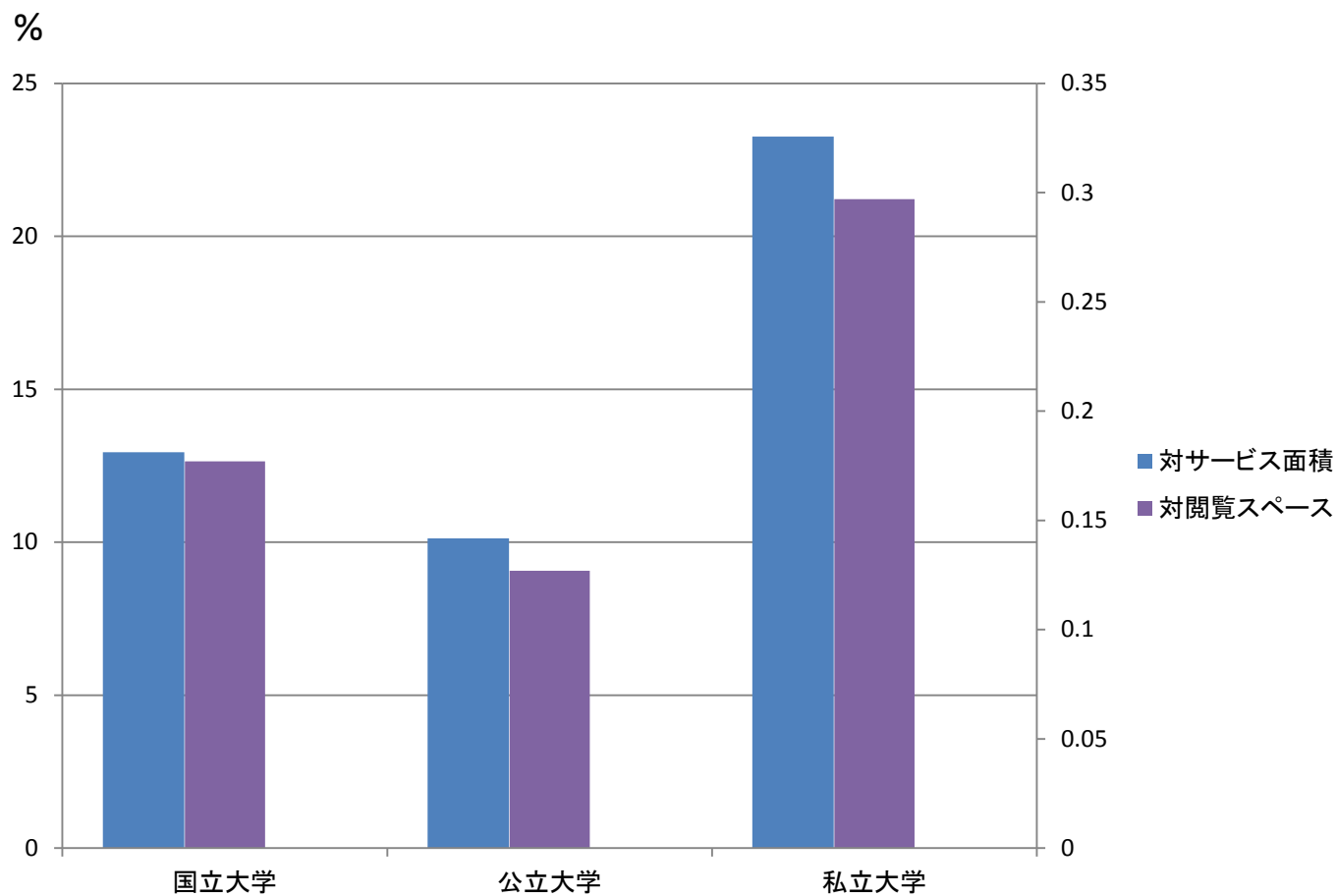


私立

サービスの実施率



アクティブ・ラーニングスペースの面積



学習指導要領の改訂

2020年(H32)4月 小学校

2021年(H33)4月 中学校

2022年(H34)4月 高等学校入学生から

大学入試改革

2020年度 「大学入学希望者学力評価テスト
(仮称)」

2024年度 新学習指導要領に基づく出題

第5章 高等教育のための情報リテラシー基準

本基準は、課題解決のための情報活用行動プロセスを6つの場面に分け、高等教育において情報リテラシーを身につけた学習者のあるべき姿を提示するものである（図3）。各場面において学習者が取べき行動を指標として示し、さらにその達成度を評価する目安となる具体的な行動を構成要素として記述した。

学習者は、これらの6つの場面を後戻りしたり繰り返したりしながら課題解決を進めていく。この試行錯誤の過程では、随時、プロセスを振り返り、自己の情報活用行動を適切に調整していくことが求められる。そして、その作業の積み重ねで身につける各場面における能力は、基礎的なレベルから次第に高いレベルへと移行していくことになる。

情報リテラシー教育の場で本基準を活用する際には、学習者が置かれている状況や現段階で身につけている能力と本基準を照らし合わせ、具体的な学習目標や評価基準を作成する必要がある。

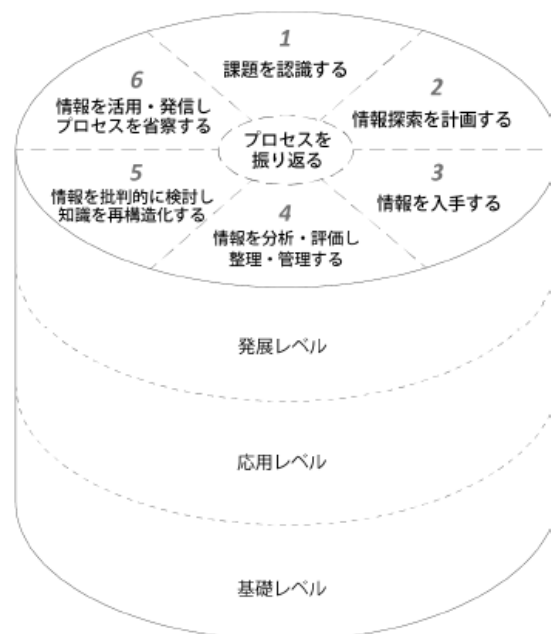


図3 情報活用行動プロセスの場面とレベル

「学び」の支援

🔥 「学び」についての理解

- 学習科学
- スキャフォールディング(梯子掛け)

🔥 情報リテラシー教育の実践

- 企画立案
- インストラクショナル・デザイン

🔥 ファシリテーション

- 場づくり
- 見える化

図書館 & 図書館員はどのように 教育にコミットしていけるのか？

研究者のパートナー



English

ホーム

学術リポジトリとは
研究成果を登録する
には

メール通知サービス

Q&A よくある質問

関連サイト

お問い合わせ

学術情報部学術情報管理課
情報基盤係

TEL : 025-262-6839

〒950-2181

新潟市西区五十嵐2の町
8050番地

新潟大学附属図書館

nuir@lib.niigata-u.ac.jp

新潟大学

OAlster

Find the pearls

OpenDOAR

新潟大学学術リポジトリ
研究成果一覧はこちらから

ENTER

キーワードを入力して、研究成果を探す

検索

(例) トキ野生復帰

お知らせ

過去のお知らせ

- 学術リポジトリに登録されている研究成果の件数が30,000件を超えました。(平成29年11月7日)
30,000件目の研究成果は「Identification of cellular genes showing differential expression associated with hepatitis B virus infection」でした。

【ご利用にあたって】

新潟大学学術リポジトリは、新潟大学の研究成果のうち、著作権者から許諾が得られたものを公開しています。ご利用にあたっては、次の点にご注意ください。

- 学術リポジトリに登録されている研究成果の著作権は、著者、出版社（学協会）などが有します。
- 学術雑誌に掲載された論文等は、発行された誌面とはレイアウトの相違や文言の違いなどがあり得ます。
- 表示・ダウンロードした研究成果は、著作権法に規定されている私的使用、引用等の範囲内で利用してください。

Information Services RESEARCH DATA SERVICE

Research Data Service home

Data management planning

Working with data

Sharing & preserving data

Research Data Service video

Data training

About the Research Data Service

Home > Information Services > Research Support > Research Data Service

Contact us

Research data management planning



Tools and support for creating data management plans

Working with research data



Tools and support for sourcing, managing, and using data

Sharing & preserving research data



Ensuring that research data are shared and preserved at the end of a project

Research Data Service video

See how the Research Data Service can help you access, manage, store, share and preserve your research data.

Training

A range of training programmes on using data and on research data management (RDM): scheduled workshops, online courses, how to request a tailored workshop for your group.

About the Research Data Service

The Service is a suite of tools and support that helps staff and students be effective with their research data before, during and after their project.

Edinburgh Research Data Blog

The Data Blog features updates on services, projects and events from the Research Data Service team.

Share



This article was published on Jul 10, 2018

What is Edinburgh DataShare?

Edinburgh DataShare is a digital repository of research data produced at the University of Edinburgh, hosted by Information Services. Edinburgh University researchers who have produced research data associated with an existing or forthcoming publication, or which has potential use for other researchers, are invited to upload their dataset for sharing and safekeeping. A persistent identifier and suggested citation will be provided.

Deposit Your Data

Deposit data

How to deposit
Checklist for deposit
Benefits of deposit

About Edinburgh DataShare

Our definitions
Service policies
Service background

このリポジトリのコミュニティ

ブラウズするコミュニティを選択してください。

College of Arts, Humanities & Social Sciences

Bringing together the former faculties of Arts, Divinity, Education, Law, Music and Social Science

College of Medicine & Veterinary Medicine

One of the world's leading centres of medical and veterinary medical research

College of Science & Engineering

Bringing together Biological Sciences, Chemistry, Engineering, GeoSciences, Informatics, Mathematics, Physics and Astronomy

Support Services

Non-academic departments, or those not belonging to a single College

Recently Added

No Thumbnail

Polymer Simulations of Heteromorphic Chromatin Predict the 3-D Folding of Complex Genomic Loci

Buckle, Adam; Brackley, Chris A; Marenduzzo, Davide; Gilbert, Nick

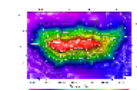
This dataset contains data corresponding to the figures and supplemental figures of the manuscript "Polymer Simulations of Heteromorphic Chromatin Predict the 3-D Folding of Complex Genomic Loci". Data sets from next ...



Byzantine aqueducts of Constantinople outside the city

Ruggeri, Francesca

This dataset is related to the PhD research of Francesca Ruggeri, published in the thesis "Engineering the Byzantine Water Supply of Constantinople: mapping, hydrology and hydraulics of the long aqueducts outside the City" ...



The Morphology of the Tasmanian Seamounts: Interactions Between Tectonic Inheritance and Magmatic Evolution

Kainins, Lara; Richards, Frederick; Watts, Anthony; Cohen, Benjamin; Beaman, Robin

Data associated with the publication: Richards, F. D., L. M. Kainins, A. B. Watts, B. E. Cohen, & R. J. Beaman. (2018). The morphology of the Tasmanian Seamounts: Interactions between tectonic inheritance and magmatic ...

No Thumbnail

Proteomic profiling of primate synapses during normal healthy ageing

Wishart, Thomas

Normal mammalian brain ageing is characterised by the selective loss of discrete populations of dendritic spines and synapses, particularly affecting neuroanatomical regions such as the hippocampus. Although previous ...

検索

登録利用者

ログイン

登録

ブラウズ

リポジトリ全体

コミュニティコレクション

DISCOVER

Data Accessioned

2010 - 2018 (2322)

2008 - 2009 (9)

Data Creator

Armit, Chris (1105)

Baldock, Richard (1105)

Burton, Nick (1105)

... View all

Subject Classification

Biological Sciences (1157)

African Language studies (87)

Engineering (42)

... View all

Subject Keywords

Transverse (825)

Mid-Gestation (480)

Late-Gestation (382)

... View all

Funder

MRC - Medical Research Council (1168)

EPSRC - Engineering and Physical Sciences Research Council (292)

Unknown (255)

... View all

Type

image (1191)

dataset (861)

sound (173)

... View all

Spatial Coverage

UK (336)

UNITED KINGDOM (331)

章構成と内容

「研究データ管理サービスの設計と実践」教材 (NII、JPCOAR)

章	内容
第1章：序論	研究データ管理に関する基礎的な知識を学ぶ - 研究データ管理とは何か - 研究データ管理の重要性が増している背景 - 研究データ管理サービスとは何か
第2章：サービス設計	自機関の実情に適したサービスを設計するために必要なことを学ぶ - 組織づくりや機関としての戦略やポリシーの立案 - Data Asset Framework（データ資産フレームワーク）の活用法
第3章：研究前の支援	研究者が研究を開始する前の段階で、求められる支援について学ぶ - 研究者が遵守すべきポリシーとは何か - 研究資金配分機関等が求めるDMP（データ管理計画）の作成支援
第4章：研究中の支援	研究者が研究を実施している最中に求められる支援について学ぶ - 研究データの種類とセキュリティポリシーの関係 - データの保存と機関の役割 - 利用可能なデータの発見方法 - データの分析や可視化の支援方法 - 論文発表の際に必要とされるデータの取扱い - データ管理計画の見直し
第5章：研究後の支援	研究終了後に、得られたデータを公開することについて学ぶ - データの公開前に確認すべきこと - データの公開場所としてのデータリポジトリの選定 - 公開するデータに付与すべきメタデータ、識別子、ライセンスなど
第6章：日常的な支援	日常的な研究データ管理サービスについて学ぶ - 研修の実施方法 - ポータルサイトの構築と提供すべき情報 - 窓口業務の実施体制 - 広報のための資料作成やアドボカシー活動の展開方法



Search

Search

NEWS

ACTIVITIES

RESEARCH

PROJECTS

ABOUT

CONTACT

The Center for Digital Scholarship, a cross-departmental group in the Brown University Library, supports digital scholarship for the Brown community and beyond by supporting scholarly and academic activities that are conducted or enhanced through the use of digital technology, or that engage with its effects.

Risorgimento



Get help with a data management plan	Interact with a large-scale, high resolution display	Visualize data
Data Curation	Visualization	Visualization
Perform Spatial Analysis, make maps	Describe your data	Start a Digital Humanities Project
Spatial Analysis	Metadata Creation	Digital Humanities
Use the Brown Digital Repository	Write a grant proposal for a digital project	Digitize objects for research and publication
Data Curation	Consultation	Digitization
Learn new skills or teach them to your class	Conferences and Lectures	Learn about Digital Scholarship
Workshops	Conferences	Research

Annotated Bibliography in Scalar using Zotero:

Visual HTML

```
<h1 id="100">My Bibliography</h1>
<div id="citations">constantinople</div>
```

June 30, 2015 | Zotero provides a great way to create and manage bibliography - however, sometimes it's necessary or...

Using the Zotero API to Render Formatted Bibliography on a Webpage:

June 29, 2015 | The following documentation describes how the Inscriptions of Israel/Palestine project queries a Zot...

Tweets by @brown_cds



 Brown CDS Retweeted



Bruce Boucek
@bruceboucek

observation: data librarians don't tweet
as much as digital humanities
librarians. :-) #icpsr @brown_cds



Oct 12, 2017



 Brown CDS Retweeted



Bruce Boucek

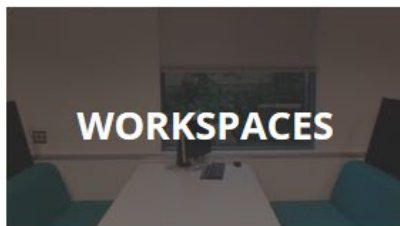


Research Commons

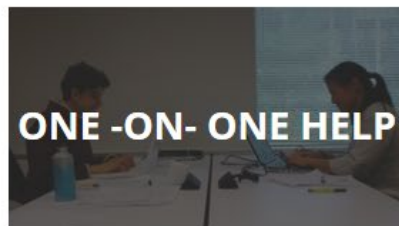
[HOME / RESEARCH COMMONS](#)



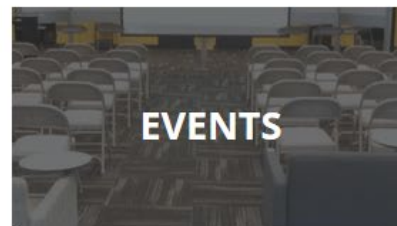
The Research Commons is ... A space for collaboration



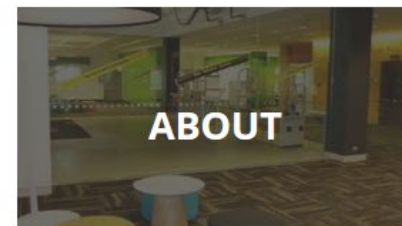
WORKSPACES



ONE -ON- ONE HELP



EVENTS



ABOUT



[Hours & Location >](#)



[Reserve a Space >](#)



[Workshop Recordings >](#)

Connect with the Research Commons



オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)

設立： 2016年7月27日

目的： リポジトリを通じた知の発信システムの構築を推進し、リポジトリコミュニティの強化と、我が国のオープンアクセス並びにオープンサイエンスに資する

運営： 自主的な参加による会費制の組織

会員機関数： 575（内JAIRO Cloud利用495）

2018. 8現在

JUSTICE (大学図書館コンソーシアム連合)

Japan Alliance of University Library Consortia for E-Resources

設立: 2011年4月

目的: 電子ジャーナル等の電子リソースに係る契約、管理、提供、保存、人材育成等を通じて、わが国の学術情報基盤の整備に貢献する。

運営: 大学図書館の自主的な参加による会費制の組織

会員: 国公立大学、大学共同利用機関など534館(2017年7月6日時点)

活動:

- 出版社交渉を通じた電子リソースの購入・利用条件の確定
- 電子ジャーナルのバックファイル、電子コレクション等の拡充など

図書館 & 図書館員は 研究者の良きパートナーとなれるのか？

20年後の図書館 & 図書館員

これがなくなったら「図書館」ではなくなる
という機能はなに？

図書の紙から電子への転換

パラダイムシフトはあるのか？いつ？

大学内で『場所としての図書館が必要である』と言っているのは？

図書館員くらいなものである。
(D.Schulenburger)

『情報化に対応しない図書館』や『学習に役立つ図書館』を明示的に指向しない大学図書館は大学にとって単なる巨大書庫という不良債権になりかねない。(河西)

平成30年度大学図書館職員長期研修
「大学図書館職員の新たな役割」竹内比呂也

国立大学図書館機能の強化と革新に向けて ～ 国立大学図書館協会ビジョン2020～

大学図書館の基本理念

大学図書館は、今日の社会における知識基盤として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する。

重点領域1. 知の共有:〈蔵書〉を超えた知識や情報の共有

目標1) 教育研究成果の発信、オープン化と保存

目標2) 出版された資料の整備と利用

目標3) 知識や情報の発見可能性の向上

重点領域2. 知の創出: 新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

目標1) 知を創出する場の拡大・整備・提供

目標2) 社会に開かれた知の創出・共有空間の提供

重点領域3. 新しい人材: 知の共有・創出のための〈人材〉の構築

目標1) 新たな人材の参画

目標2) 大学図書館職員の資質向上

※会員館は(・・・)それぞれの大学のミッションや中期目標等に添うように
戦略的目標を選択してその達成をはかる

大学改革の中での大学図書館への期待

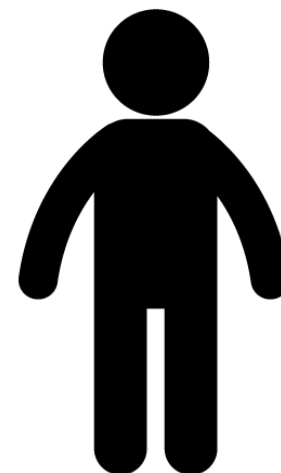
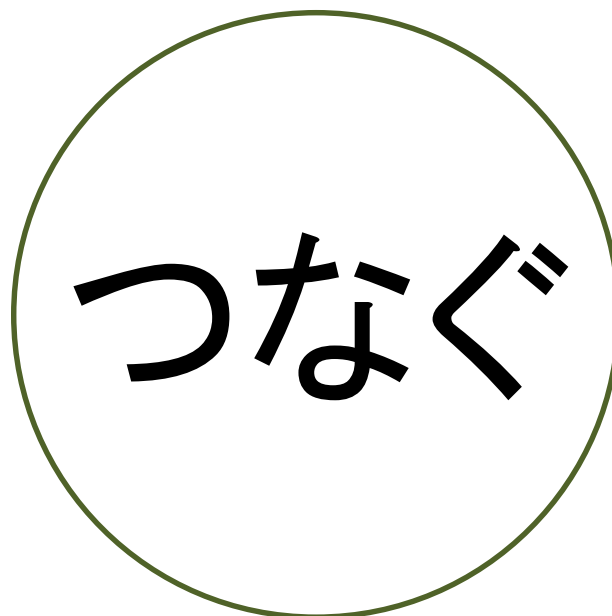
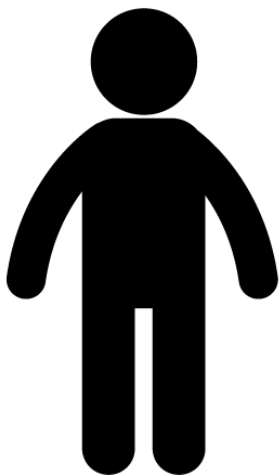
(平成29年度大学図書館職員長期研修 東北大学植木館長講義より)

1. 教育・学習
 - － 学生の学修形態の変化と発展: Active Learningの場として
 - － 図書館職員による教育活動への主体的関与、教員との連携強化の必要性
 - － 「社会人(再)教育」の場としての期待
2. 研究
 - － 電子ジャーナル、機関リポジトリ、オープンアクセスへの対応
 - － URAとの連携
3. 社会貢献・社会連携
 - － 大学(学生・教員)と社会・地域とをつなぐ「窓口」としての「大学図書館」の役割
4. 大学運営とマネジメント
 - － 大学の構成員—執行部・教員・学生—と学外の社会を繋ぐ最も重要な「ハブ」としての役割を担うことを目指して

「学校図書館専門職は情報リテラシー教育に携わる。アメリカの授業は知識の源は教室外にあることが前提で、それを使いながら質問応答することを繰り返して学習者個々の知識の定着と展開をはかる。だから、知識はそれぞれの批判的思考の結果、一時的に得られた仮説にすぎず、決して固定されたものではない。そして、自らの知識が外部の知識装置にあるコンテンツとうまく結びつけられたときに、学習は最高の展開を示す。学校司書はその過程に寄り添い、アドバイスを行う。学習者が情報リテラシー能力を身につける手伝いをするのだ。」

根本彰『情報リテラシーのための図書館 日本の教育制度と図書館の改革』みすず書房, 2017, p.190

図書館は 知識を取り出す装置



2040年 大学図書館は？

22年後の現実です。